2027 年度

早稲田大学大学院

教育学研究科
入学試験要項

博 士 後 期 課 程

一 般 入 学 試 験
専 門 職 業 人 入 学 試 験
国費外国人留学生入学試験
外 国 学 生 入 学 試 験

早 稲 田 大 学
大学院教育学研究科　入試係

[住 所]　〒169-8050 東京都新宿区西早稲田 1-6-1　16 号館 2 階
[電 話]　03-3208-0529
[Email]　gse-admission@list.waseda.jp
[U R L]　https://www.waseda.jp/fedu/gedu/

[事務所開室時間]　平日　10:00～16:00
※但し次の期間は閉室します。
・夏季一斉休業期間（2026/8/6～8/16）および冬季一斉休業期間（2026/12/25～2027/1/5）の全日

2027 年度 早稲田大学大学院教育学研究科入学試験要項

目　　次

Ⅰ．入学試験日程 …… 1
Ⅱ．受験要領 …… 2
　１．出願資格 …… 2
　２．募集専攻・人員 …… 4
　３．出願期間・出願方法・出願書類提出先 …… 4
　４．出願上の注意 …… 4
　５．志願者情報 Web 登録 …… 5
　６．入学検定料　（入試区分によって、支払期間および支払方法が異なります） …… 6
　７．出願書類 …… 8
　８．受験票の送付 …… 13
　９．試験科目・試験方法 …… 13
　１０．試験日および合格者発表日 …… 14
　１１．試験会場 …… 14
　１２．合格者発表場所および時間 …… 15
　１３．受験上の注意事項等について …… 15
Ⅲ．入学手続 …… 17
　１．手続書類の交付（予定） …… 17
　２．入学手続期間・方法 …… 17
　３．入学手続に必要な書類【ご参考】 …… 17
　４．入学手続に必要な登録料・学費・諸会費【ご参考】 …… 18
　５．外国学生（外国籍）の方へ …… 19
　６．特定国からの志願者に対する検定料免除措置制度 …… 22
　７．提携金融機関（オリコ・楽天銀行）による「早稲田大学学費ローン（入学時）」 …… 23
Ⅴ．募集研究指導一覧・研究指導の内容 …… 24
　１．募集研究指導一覧 …… 24
　２．研究指導の内容 …… 26
博士学位論文の申請について …… 34
「大学院博士後期課程研究者養成奨学金制度」 …… 34

個人情報の取扱いについて

本学（学校法人早稲田大学が設置する早稲田大学その他の学校をいう。以下同じ。）では、志願時に収集した個人情報（住所・氏名・生年月日等）を、入学試験実施、合格者発表、入学手続およびこれらに付随する業務のために利用します。その際、当該個人情報の漏洩・流出・不正利用等がないよう、必要かつ適切な管理を行います。

また、上記業務の全部又は一部を委託する場合があります。その場合、委託先に対し、契約等により、必要かつ適切な管理を義務付けます。

本学に提出された書類・資料・論文および提供された情報等（「本提出書類等」といいます。）につき、その真正性等について、本学が発行元・提供元および論文審査機関等に対して、本提出書類等を提供して問合せをすることがあります。出願者は本提出書類等を本学に提出または提供したことをもって、本学がこの問合せを行うことに同意したものとします。

これらの他、個人が特定されないように統計処理した個人情報を、大学における入学者選抜のための調査・研究の資料として利用します。

この「入学試験要項」では、携帯電話、スマートフォン、スマートウォッチ、スマートグラス、ワイヤレスイヤホン等（Bluetooth、Wi-Fi、データ通信等、日時・時刻以外の情報を送信、受信、または送受信が可能な機能が搭載された機器）をすべて含めて「携帯電話等」と表記しています。

Ⅰ．入 学 試 験 日 程

<table>
<tr><td rowspan="2">入試種別</td><td rowspan="2">一般入試
専門職業人入試
国費外国人留学生入試</td><td colspan="2">外国学生入試</td></tr>
<tr><td>国内出願</td><td>国外出願</td></tr>
<tr><td>出願審査申請期限
【注 1】を参照</td><td colspan="3">2026 年 10 月 26 日（月）（最終日消印有効）</td></tr>
<tr><td>出願期間</td><td colspan="2">2027 年 1 月 6 日（水）～1 月 12 日（火）
（郵送または窓口：締切日消印有効）</td><td>郵送のみ：
2026 年 11 月 24 日（火）
～12 月 2 日（水）
（最終日必着）</td></tr>
<tr><td>一次試験（筆記）</td><td colspan="3">2027 年 2 月 5 日（金）

集 合 時 間 ： 10 時 15 分
試 験 開 始 ： 10 時 30 分
試 験 会 場 ： 早稲田キャンパス１６号館等
※試験会場・控室は、試験日当日、本研究科掲示板
（早稲田キャンパス１６号館２階入口）で発表します。</td></tr>
<tr><td>一次試験合格者発表</td><td colspan="3">―</td></tr>
<tr><td>二次試験（口述）</td><td colspan="3">2027 年 2 月 5 日（金）

集 合 時 間 ： 14 時 15 分
試 験 開 始 ： 14 時 30 分
試 験 会 場 ： 早稲田キャンパス１６号館等
※試験会場・控室は、試験日当日、本研究科掲示板
（早稲田キャンパス１６号館２階入口）で発表します。</td></tr>
<tr><td>合格者発表</td><td colspan="3">2027 年 2 月 8 日（月） 10:00

教育学研究科 Web ページに合格者受験番号表を掲載します。
https://www.waseda.jp/fedu/gedu/</td></tr>
<tr><td>入学手続書類発送</td><td colspan="3">2027 年 2 月 8 日（月）に送付予定</td></tr>
<tr><td>入学手続締切</td><td colspan="3">①2027 年 2 月中旬（入学手続料納入・Web 入力）
②2027 年 3 月中旬（書類提出）</td></tr>
</table>

【注１】出願審査申請期限とは、次の出願資格で出願を希望する方に行う「個別の入学資格審査」の申請期限のことです。

本研究科において、個別の入学資格審査により、修士または修士（専門職）もしくは法務博士（専門職）の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、入学の時点で 24 歳に達する者

従って、その他の出願資格（例：修士の学位を取得した（する見込みの）者等）で出願する方は、「入学資格審査」を受ける必要はありません。

Ⅱ．受 験 要 領

１．出願資格

入試区分	出　願　資　格
一般入試	次の①～⑤のいずれかに該当する者。 ① 修士または修士（専門職）もしくは法務博士（専門職）の学位を得た者、または 2027 年 3 月までに取得見込みの者 ② 外国において修士もしくは修士（専門職）の学位またはこれに相当する学位を得た者、または 2027 年 3 月までに取得見込みの者 ③ 文部科学大臣の指定した者 ④ 国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者、または2027年3月までに取得見込みの者 ⑤ 本研究科において、個別の入学資格審査により、修士または修士（専門職）もしくは法務博士（専門職）の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、入学の時点で 24 歳に達する者 **注１：**英語科教育学・英語科内容学を志願する場合、出願締切日から遡って 2 年以内に実施された、以下のいずれかのスコアを有している（*）こと。 ・TOEFL iBT　2026.1.20 以前受験者「72 点以上」 2026.1.21 以降受験者「Overall Score 4.0 点以上」 ※MyBest® スコアも利用可　※TOEFL iBT Home Edition は不可 ・IELTS Academic または IELTS for UKVI Academic「6.5 点以上」 ※Computer-delivered IELTS も可 ＊ただし、以下の A または B の場合は例外とする。 A. 本研究科修士課程英語教育専攻に在学し、2027 年 3 月までに修士学位取得見込の場合。 B. 英語を媒介とするプログラム（EMI）で学士、あるいは修士の学位を取得している場合。 B の場合、EMI であることが記載されている Certificate か、そうでない場合は EMI であることの証明（手紙：推薦状ではない）を担当教員に書いてもらい、提出する。 **注２：外国において修士の学位またはこれに相当する学位を得た（あるいは修了見込みの）外国学生は、外国学生入試での受験となります。** **注３：**上記「⑤」に該当して出願しようとする者は、事前に出願資格の審査を行いますので本研究科へ問合せてください。（出願資格審査申請締切：2026 年 10 月 26 日(月)）
専門職業人入試	次の**Ａ、Ｂ**の資格を共に有する者。 **Ａ．**「一般入試」または「外国学生入試」の出願資格を満たすこと。 **Ｂ．**本課程入学時までに、下記いずれかの職（①・②・③の合算も可）において継続して 3 年以上の職務経験を有する者。 ①学校の専任の職　　②官公庁の専任の職　　③企業等の専任の職 ＊いずれも専任に準ずる職を含む **注１：**英語科教育学・英語科内容学を志願する場合、出願締切日から遡って 2 年以内に実施された、以下のいずれかのスコアを有している（*）こと。 ・TOEFL iBT　2026.1.20 以前受験者「72 点以上」 2026.1.21 以降受験者「Overall Score 4.0 点以上」 ※MyBest® スコアも利用可　※TOEFL iBT Home Edition は不可 ・IELTS Academic または IELTS for UKVI Academic「6.5 点以上」 ※Computer-delivered IELTS も可 ＊ただし、以下の A または B の場合は例外とする。 A. 本研究科修士課程英語教育専攻に在学し、2027 年 3 月までに修士学位取得見込の場合。 B. 英語を媒介とするプログラム（EMI）で学士、あるいは修士の学位を取得している場合。 B の場合、EMI であることが記載されている Certificate か、そうでない場合は EMI であることの証明（手紙：推薦状ではない）を担当教員に書いてもらい、提出する。 **注２：**現職教員等の学生の履修方法の特例 １．教育上特別に必要があると認められる場合には、特定の時間または時期において、適当な方法により授業または研究指導を行うことがある。 ２．上記の方法による履修を希望する学生は、入学志願の際にその旨を申し出なければならない。 連絡先：本研究科入試係（Email：gse-admission@list.waseda.jp） **注３：**一般入試の出願資格「⑤」に該当して出願しようとする者は、事前に出願資格の審査を行いますので本研究科へ問合せてください。（出願資格審査申請締切：2026 年 10 月 26 日(月)）

国費外国人留学生入試	次の**A**、**B**の資格を共に有する者。 **A**．①すでに修士の学位を得ている者または 2027 年 3 月までに修士の学位取得見込みの者 ②外国において修士の学位またはこれに相当する学位を得た者 ③国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者、または 2027 年 3 月までに取得見込みの者 **B**．日本国政府文部科学省奨学金給付奨学生で、正規の課程の年限にわたって日本国政府文部科学省奨学金給付が見込まれる者
外国学生入試	以下の①、②のいずれかに該当する者 ① 外国において修士もしくは修士（専門職）の学位またはこれに相当する学位を得た者、または 2027 年 3 月までに取得見込みの者 ② 本研究科において、個別の入学資格審査により、修士もしくは修士（専門職）の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、入学までに 24 歳に達する者 ※外国籍の者であっても、日本の大学院を修了している者は「外国学生」には該当しません。 **注１**：英語科教育学、英語科内容学の志願者は、（要件１）を満たすこと。 **注２**：数学科教育学、数学科内容学の志願者は、（要件１）または（要件２）を満たすこと。 **注３**：それ以外の志願者は、（要件２）を満たすこと。 **（要件１）**出願締切日から遡って 2 年以内に実施された、以下のいずれかのスコアを有している（*）こと。 ・TOEFL iBT　2026.1.20 以前受験者「72 点以上」 2026.1.21 以降受験者「Overall Score 4.0 点以上」 ※MyBest® スコアも利用可　※TOEFL iBT Home Edition は不可 ・IELTS Academic または IELTS for UKVI Academic「6.5 点以上」 ※Computer-delivered IELTS も可 ＊ただし、以下の A または B の場合は例外とする。 A. 本研究科修士課程英語教育専攻に在学し、2027 年 3 月までに修士学位取得見込の場合。 B. 英語を媒介とするプログラム（EMI）で学士、あるいは修士の学位を取得している場合。 B の場合、EMI であることが記載されている Certificate か、そうでない場合は EMI であることの証明（手紙：推薦状ではない）を担当教員に書いてもらい、提出する。 **（要件２）**日本語能力試験１級／N１または日本留学試験「日本語」260 点以上のスコアを有していることが必要です（日本留学試験については、出願締切日から遡って２年以内に実施された試験のスコアに限ります）。 **注４**：外国学生入試の出願資格「②」に該当して出願しようとする者は、事前に出願資格の審査を行いますので本研究科へ問合せてください。 （出願資格審査申請締切：2026 年 10 月 26 日(月)）

※ 志願者は、当該専門分野の専攻に関連する科目を履修していることが望ましい。

教育学研究科 Web ページでは、博士学位論文に関する情報を公開しています。博士論文審査の基準や流れについても掲載していますので、詳細を必ずご確認ください。
教育学研究科 Web ページ：https://www.waseda.jp/fedu/gedu/students/report/

出願時に、本入試要項記載の出願資格を満たすために大学院入学資格取得見込の証明書を提出された方については、入学手続時に、その資格取得を証明する書類を提出してください。入学試験に合格されても、入学までにその資格取得の証明書を提出できない（大学院入学資格を満たすことができない）場合は、入学を認められませんので注意してください。

本学の教員は、本学の学籍を有することができませんので注意してください。ただし、規約上認められている場合もありますので、不明点がある場合は所属箇所の事務所を通じて本部までお問合せください。

２．募集専攻・人員

専　　攻	募集人員
教育基礎学専攻	各研究指導 若干名
教科教育学専攻	各研究指導 若干名

３．出願期間・出願方法・出願書類提出先

入試区分	提出先	出　願　期　間
一 般 入 試 専門職業人入試 国費外国人留学生入試 外国学生入試 **（国内出願）**	教育学研究科事務所	○郵送による出願：2027 年 1 月 6 日(水)～1 月 12 日(火) （最終日消印有効） ○来校による出願：2027 年 1 月 6 日(水)～1 月 12 日(火) 受付時間(*)：平日午前 10 時～午後 4 時 *受付時間が変更になる場合があります。 来校の際は必ず研究科 HP にて事務所開室時間を確認の上、 お越しいただくようお願いします。
外国学生入試 **（国外出願）**		○郵送による出願：2026 年 11 月 24 日(火)～12 月 2 日(水) 出願はすべてＥＭＳ等による郵送受付となり、 出願期間最終日必着とします。

４．出願上の注意

（全入試区分共通の注意事項）

・郵送する際、所定の「志願票等送付用住所ラベル」に住所・氏名を記入し、封筒の宛名面に貼付のうえ送付してください。
※外国学生入試国外出願の方はこれに該当しません。次の（外国学生入試対象者の注意事項）を参照してください。

・お住まいの地域や国によっては配達に時間を要するところがありますので、時間に余裕を持って送付するようにしてください。

・出願締切日を過ぎた書類は一切受け付けません。

・出願書類の到着の有無に関する問合せにはお答えできません。書類到着の確認は、郵便局の追跡サービス（国外出願の場合は EMS 等の追跡サービス等）を利用の上、確認を行ってください。

・出願書類に不備や不足書類があった場合は、受験資格を失うことがあります。必要書類が揃っているか十分に確認の上、出願をしてください。また本学から連絡があった時は速やかにその指示に従ってください。

・出願後に志願票に書かれた住所・電話番号・E メールアドレス等を変更した場合は、速やかに本研究科事務所に連絡をしてください。志願票に書かれた情報を変更したことが原因で本学からの連絡が届かなかったとしても、本学は一切の責任を負いません。

・出願の際に本学に提出した書類・資料、提供した情報等に偽造・虚偽記載・剽窃等があった場合は、不正行為認定の対象となり、入学試験の結果を無効とします。なお、その場合も提出された書類・資料等および入学検定料は返還しません。

・身体機能の障がいや疾病等により、受験・就学に際して配慮を必要とする場合は、出願に先立ち、本研究科事務所にお問合せください。また、大きな病気やけがのため、受験および就学に支障をきたす恐れがある方についても、それが万一出願後に起こった場合でも、速やかにお問合せください。

（外国学生入試対象者の注意事項）

・外国学生の出願手続は、志願者の居住地によって「国内出願」と「国外出願」に区分が分かれます。以下の定義により自身の出願区分を確認してください。

「国内出願」「国外出願」はそれぞれ出願期間・出願方法等が異なりますので、十分にご注意ください。

	国内出願	国外出願
対　象	出願時に日本国内に居住する者	出願時に日本国外に居住する者
資格確認	志願票に記載された「現住所」から判断します	

・国内出願の方は、必ず所定の「志願票等送付用住所ラベル」を使用して送付してください。国外出願の方は、「志願票等送付用住所ラベル」の住所を国際宅配業者（EMS 等）のラベルに転記のうえ、送付してください。

・国内出願者で、出願時に入学時以降まで有効な在留資格を有していても、個々の事情により、入学後の在留資格の更新・変更が許可されない場合があります（現在保持している在留資格の根拠となる活動を、正当な理由なく継続して３ヶ月以上行っていない場合など）。入学後の在留資格更新・変更の取得については、本学は一切保証できません。必ず出入国在留管理局に確認し、各自の責任において出願してください。

・一度提出した書類・資料の返還は原則として行いません。ただし、再発行が不可能な書類に限り書類の返還を行います。希望する場合は必ず「提出書類返還依頼書」を記入し、出願書類と一緒に送付してください。「提出書類返還依頼書」が出願書類と一緒に送付されていない場合は、書類の返還は一切行いません。

５．志願者情報 Web 登録

（１）入力

志願者は必ず Web 上にて志願者情報の登録を行ってください。登録用のフォームは出願期間中、本研究科 Web ページの本入学試験要項掲載ページにリンクを掲載します。

https://www.waseda.jp/fedu/gedu/applicants/admission/（教育学研究科＞受験生の方へ＞入学試験情報）

（２）入力上の注意

・原則として、志願者本人が入力してください。
・すべて入力後、最下段の「保存」を押してください。その後「申請確認：申請を保存してよろしいですか？」という画面が出ますので、「はい」を押すと登録確定となります（その後「保存しました」と表示されます）。
・フォームに入力した情報に誤りがあった場合などは、再度登録し直してください。
・登録が完了すると、「【MyWaseda】申請通知：教育学研究科博士後期課程入学試験志願者情報登録」という件名のメールが入力したアドレス宛に自動送信されます。このメールを印刷し、出願書類として同封してください。
・受信拒否を回避するため、携帯電話のキャリアメール**以外**（「Gmail」、「Yahoo!メール」等）を利用されることを推奨します。
・フォームでの登録後、自動送信メールが受信できない場合、以下の可能性が考えられます。
①迷惑メールとして分類されている
②入力したメールアドレスに誤りがある
迷惑メールからも見つからない場合は、誤った入力が行われた可能性がありますので、最初からフォームの再入力を行ってください。提出書類と突合して、正規の登録内容を判断します。
・登録されたメールアドレス宛に試験実施に関するご連絡等を行うことがありますので、出願から試験当日までの間、定期的に受信メールを確認できるようにしておいてください。

６．入学検定料　（入試区分によって、支払期間および支払方法が異なります）

入学検定料免除者について

○ 次のいずれかに該当する場合は、入学検定料が免除となります。

・本研究科の修士課程または専門職学位課程（以下「修士課程等」という。）修了者が、修士課程修了と**同時に**、本研究科博士後期課程に入学を志願する場合。

・本研究科の修士課程等修了者が、引続き次年度に本研究科の一般科目等履修生となり、その後引続き本研究科の博士後期課程に入学を志願する場合。ただし、修士課程等入学後４年以内に入学を志願する場合に限る。

○ 本研究科に入学後に国費外国人留学生となる可能性のある方は、入学検定料が免除になる場合があります。該当する方は出願前に本研究科までご相談ください。

入学検定料の支払方法について

＜日本国内からの入学検定料支払方法＞

入試区分	入学検定料支払い期間	入 学 検 定 料
一 般 入 試	2026 年 12 月 23 日(水)～ 2027 年 1 月 12 日(火)	３０，０００円
専門職業人入試		
国費外国人留学生入試		
外国学生入試（**国内出願**）		

① 入学検定料は最寄りのコンビニエンスストアで支払ってください。

② コンビニエンスストアでの支払いに際しては、事前にPC・携帯電話等よりインターネット上の「入学検定料コンビニ支払いサイト」（https://e-shiharai.net/）にアクセスをして所定の申込手続を完了させる必要があります。

③ 支払い終了後、『入学検定料・選考料取扱明細書』の「収納証明書」部分を切り取り、『志願票№２（様式－②)』の所定欄に貼り付けて提出してください。詳細は「コンビニエンスストアでの入学検定料支払方法」を確認してください。

④ 支払いは、土日・祝日を問わず、２４時間いつでも可能です。ただし、納入期間最終日の「Webページでの申込」は23：00まで、コンビニエンスストア店頭での支払手続は23：30までとなりますので注意してください。

※家族・知人が代理で手続をする場合でも、必ず出願者本人の情報を入力するようにしてください。
※コンビニエンスストアでの支払いが困難な方は、事前に本研究科まで連絡してください。

＜日本国外からの入学検定料支払方法＞

入試区分	入学検定料支払期間	入 学 検 定 料
外国学生入試（**国外出願**）	2026 年 11 月 16 日(月) ～12 月 2 日(水)	３０，０００円

次ページの要領に従い、金融機関より海外送金してください。**その際、銀行所定の海外送金申請書のコピーを出願書類に同封してください。**

＜海外送金要領＞

送金種類	電信送金（Telegraphic Transfer）
支払方法	通知払（Advise and Pay）
振込銀行手数料	依頼人負担（Payer's Responsibility）
円為替手数料	受取人負担（Payee's Account）
送金額	入学検定料に円為替手数料、金融機関ごとの送金手数料を加えた金額 30,000 円（検定料）＋2,500 円（円為替手数料）＋（各金融機関ごと）送金手数料
送金目的	入学検定料（Screening Fee）
送金先銀行名	三菱 UFJ 銀行（MUFG Bank, Ltd.）
支店名	江戸川橋支店（Edogawabashi Branch）
口座番号	0035967FHR ※口座番号欄には数字 7 文字とアルファベット 3 文字を記入してください。
受取人	早稲田大学（Waseda University）
銀行住所	〒162-0825　東京都新宿区神楽坂 3-7 (3-7,Kagurazaka Shinjuku-ku Tokyo,Japan)
スウィフトコード	BOTKJPJT
備考	必要連絡事項（Message to Payee, if any）には受験者本人の氏名 （Applicant's name）の前に "37GSE " を必ず記入してください。

■出願書類および入学検定料の返還について

一度提出した書類およびお支払いいただいた入学検定料は、原則として返還いたしません。ただし、下記のケースに該当する場合は、入学検定料に限り全額または超過分を返還いたします。該当する方は 2027 年 1 月 30 日までに早稲田大学教育学研究科（gse-admission@list.waseda.jp）までご連絡ください。

1）入学検定料を所定額より多く支払った。
2）入学検定料を支払ったが、出願書類は提出しなかった。
3）入学検定料を支払ったが、出願締切後に出願書類を提出した。
4）入学検定料を支払い、出願書類を提出したが、出願書類の不備や出願資格を満たしていない等の理由により、出願が受理されなかった。
5）入国制限・渡航制限により日本に入国できなかったことにより、本学での試験を受験できなかった。

なお、日本国外の金融機関口座へ入学検定料を返還する場合、返還に伴い発生する手数料等は志願者の負担となります。

■被災地の志願者に対する減免制度

本学では、被災地（災害救助法適用地域）の志願者に対して、受験・入学の機会をできるかぎり保障するため、被災の状況により、入学検定料や登録料（入学金相当額）、学費・諸会費の減免制度を用意しております。

2026 年 4 月 1 日（入学予定日の 1 年前）以降に災害救助法が適用された地区町村において被災された方で、減免を希望される方は、下記の入学センターWEB ページをご覧のうえ申請してください。

【URL】https://www.waseda.jp/inst/admission/others/exemption/

7．出願書類

【注】提出された修士論文・資料等は原則として返却しませんので、必ずコピーを提出してください。

出願書類　記入上の注意

（1）ペンまたはボールペン（黒）で記入してください。（鉛筆・フリクションペン等は不可）
（2）誤って記入した場合は、二本線で消し、訂正印を押印したうえで再度記入（できるだけ枠内）すること。修正液は使用しないでください。

博士論文の研究計画書や修士論文概要書は、本研究科に自分自身について説明する機会となりますので、ご自身で作成してください。生成 AI を使用してこれらの書類を作成し、自分で書いたものとして提出した場合、不正行為とみなされる可能性や、選考上の評価に影響を及ぼす可能性があります。

※Word 文書（Docx ファイル）として提供されている書類については、所定様式に直接データ入力したものを印刷し、提出することも可とします。
ただし、様式の枠線配置などは一切変更しないでください。（「Ａ４」片面１枚で作成してください。）

（凡例：「○」→ 必須提出　　「△」→ 該当者のみ提出　　「×」→ 提出不要）

様式名	提出書類	一般	専門職業人	国費外国人留学生	外国学生
博士後期課程 様式-①	**入学試験 志願票　No.1** ・年号は西暦で記入してください。 ・早稲田大学出身者の方は、学籍番号を記入してください。 （複数の学籍番号を持っている場合は、必ず最新のものを記入してください。）	○	○	○	○
博士後期課程 様式-②	**入学試験 志願票　No.2** ・所定欄に氏名等を記入の上、様式－②に記載の注意事項に沿って、「入学検定料収納証明書」「写真」を糊付けしてください。 ・本学では、入学試験の円滑な実施と入学手続の必要上、合理的理由があると判断される必要最小限に限り、戸籍またはパスポート等の公的書類上の性別情報を収集しています。パスポート等の公的書類上の性別が男女のいずれでもない方は、出願に先立ち、本研究科までご連絡ください。性別情報が合否に影響を及ぼすことは一切ありません。 https://www.waseda.jp/inst/diversity/support/sexual-minority/	○	○	○	○
博士後期課程 様式-③	**博士論文の研究計画書** **・「博士後期課程 様式-③」の表紙をつけて提出してください** ・ワープロ使用の場合Ａ４判横書（40×40）**３枚**以内 ・原稿用紙使用の場合Ａ４判横書（400 字詰）**12 枚**以内 ・欧文の場合Ａ４判（ダブルスペース）**６枚**以内 ※いずれも参考文献や注を含んだ枚数です	○	○	○	○
博士後期課程 様式-④	**業績書** ・「修士論文」欄には研究計画の前提として、主となる修士論文（または相当する業績）について記載してください。 ・「業績」欄には研究計画に関連する各業績について記入し、それを証明する資料（コピー可）を各３部ずつ提出してください。 ・各業績を証明する資料は、資料番号を付ける等、対応する業績がわかる形で提出してください。	○	○	○	○

様式名	提　出　書　類	一　般	専　門 職業人	国　費 外国人 留学生	外　国 学　生
博士後期 課程 様式-⑤	**修士論文概要書**　※原則として日本語または英語とする **・「博士後期課程　様式-⑤」の表紙をつけて提出してください** ・ワープロ使用の場合Ａ４判横書（40×40）**１枚**以内 ・原稿用紙使用の場合Ａ４判横書（400 字詰）**４枚**以内 ・欧文の場合Ａ４判（ダブルスペース）**２枚**以内 ※いずれも参考文献や注を含んだ枚数です **【本研究科以外での修士論文を主として提出する人は、修士論文概要書の提出が必要です。ただし、修士論文を提出せずに学位を取得して出願した方は、修士論文に相当する業績についての概要書を提出してください】** **【様式-④「業績書」修士論文欄に、本研究科に提出した論文を記載した方は提出不要です】**	△	△	△	△
コピー	**修士論文　３部**　※原則として日本語または英語とする **【本研究科以外の研究科での修士学位により出願する人は、修士論文の提出が必要です。ただし、修士論文を提出せずに学位を取得して出願した方は、修士論文に相当する業績を提出してください】** **【様式-④「業績書」修士論文欄に本研究科に提出した論文を記載した方は提出不要です】**	△	△	△	△
原本	**修士課程の修了（見込）証明書またはこれに相当する証明書** ・「修了（見込）」と「成績」が同一用紙で証明されている証明書でも結構です。 ・必ず証明書の原本を提出してください（コピーは不可）。 ・証明書は日本語または英語で書かれたものを提出してください。日本語または英語で発行できない場合は、翻訳文を作成し、翻訳文の内容が正しいことを証明する公証書（原本）とあわせて提出してください。 ・修了見込の場合は、修了見込証明書を提出し、合格後、入学手続を行う際に修了証明書を必ず提出してください。入学手続までに卒業（修了）証明書を提出できない場合は、入学を認められませんので注意してください。 ［早稲田大学出身の方へ］ ・本研究科修士課程修了者および修了見込者は、提出不要です。 ・本研究科修士課程以外の出身者の方が本学発行の各種証明書を提出する場合、紙媒体の証明書（原本）・デジタル証明書（原本）のいずれかを提出してください。早稲田大学のデジタル証明書は提出先への直送を原則として、紙での複製・デジタルでの複製を禁止しています。 ・本学発行のデジタル証明書を利用する場合、以下のとおり申請ください。 提出先名称：早稲田大学大学院教育学研究科 提出先メールアドレス：gse-admission@list.waseda.jp 〔中国の大学を卒業/修了した方（見込者を含む）は以下の指示に従ってください。〕 中国の大学を修了した者およびその見込の者は、大学発行の「修了（見込）証明書」の提出は不要です。その代替として、CHSI が発行する以下の認証書を、CSSD から教育学研究科事務所（gse-admission@list.waseda.jp）へ E メールで直送されるよう手配してください。 ＜修了者＞ 「Online Verification Report of Higher Education Qualification Certificate」 ＜修了見込者＞ 「Online Verification Report of Student Record」 CSSD から直接メールで届く英語版の認証書のみ有効とします。必ず出願期間締切日までに本研究科へ届くよう、余裕を持って準備してください。	△	△	△	○

様式名	提　出　書　類	一　般	専　門 職業人	国　費 外国人 留学生	外　国 学　生
原本	**修士課程の学位取得証明書（見込証明書）** 〔中国の大学院（修士課程相当）を修了した方のみ提出〕 ・中国の大学院（修士課程相当）を修了した方は学位取得証明書と修了証明書（CHSI認証書）の両方を提出する必要があります。 ・CHSI が発行する「Online Verification Report of Higher Education Degree Certificate（英語版）」を学位取得証明書として提出することを推奨します。CSSD から教育学研究科事務所（gse-admission@list.waseda.jp）へ出願締切日までにメールで直送されるよう手配してください。CSSD から直接メールで届く英語版の認証書のみ有効とします。 ・ただし、CSSD から本研究科への直送では出願締切日までの提出が難しい場合は、日本語または英語で書かれた、大学発行の学位取得証明書（原本）の提出を認めます。証明書には学位番号の記載が必要です。記載がない場合は学位取得証明書とは別に、学位証書など（番号がわかるもの）のコピーを添えてください。	△	△	△	△
原本	**修士課程の成績証明書、またはこれに相当する証明書** ・修士課程に在学中の場合は前学年までの成績証明書を提出してください。 ・「修了（見込）」と「成績」が同一用紙で証明されている証明書でも結構です。 ・必ず証明書の原本を提出してください（コピーは不可）。 ・証明書は日本語または英語で書かれたものを提出してください。日本語または英語で発行できない場合は、翻訳文を作成し、翻訳文の内容が正しいことを証明する公証書（原本）とあわせて提出してください。 ［早稲田大学出身の方へ］ ・本研究科修士課程修了者および修了見込者は、提出不要です。 ・本研究科修士課程以外の出身者の方が本学発行の各種証明書を提出する場合、紙媒体の証明書（原本）・デジタル証明書（原本）のいずれかを提出してください。早稲田大学のデジタル証明書は提出先への直送を原則として、紙での複製・デジタルでの複製を禁止しています。 ・本学発行のデジタル証明書を利用する場合、以下のとおり申請ください。 提出先名称：早稲田大学大学院教育学研究科 提出先メールアドレス：gse-admission@list.waseda.jp 〔中国の大学を修了した方（見込者を含む）は以下の指示に従ってください。〕 ・中国の大学を修了した方は、中国政府学歴認証センター（または中国政府指定学歴・学籍認証センター日本代理機構）が発行する「Verification Report of China Higher Education Student's Academic Transcript」を「成績証明書」として提出することを推奨します。CSSD から教育学研究科事務所（gse-admission@list.waseda.jp）へ出願締切日までにメールで直送されるよう手配してください。CSSD から直接メールで届く英語版の認証書のみ有効とします。 ・ただし、CSSD から本研究科への直送では出願締切日までの提出が難しい場合は、日本語または英語で書かれた、大学発行の成績証明書（原本）の提出を認めます。	△	△	△	○
博士後期課程 様式-⑥	**履歴書**	×	○	×	×
博士後期課程 様式-⑦	**職歴調書**	×	○	×	×
原本	**在職証明書または在職期間証明書** **（資格と在職期間が明記されたもの）** ・継続して３年以上の職務経験を有することを証明するものです。 ・１つの勤務先での在職期間が３年に満たない場合、他の勤務先の証明書類も提出してください。（連続していることが必要です。）	×	○	×	×

様式名	提出書類	一般	専門職業人	国費外国人留学生	外国学生
原本	**英語能力証明書** ＜試験実施団体から大学に直送＞ **Official Score Report (TOEFL) または Test Report Form (IELTS)** **【英語科教育学・内容学志願者は原則全員提出。 数学科教育学・内容学志願者の外国学生入試の志願者のうち、 該当する者のみ提出】** 出願締切日から遡って 2 年以内に実施された ・TOEFL iBT　2026.1.20 以前受験者「72 点以上」 2026.1.21 以降受験者「Overall Score 4.0 点以上」 ※MyBest® スコアも利用可　※TOEFL iBT Home Edition は不可 ・IELTS Academic または IELTS for UKVI Academic 「6.5 点以上」（Computer-delivered IELTS も可） のいずれかのスコアを有していること(*)が必要です。 *ただし、以下の A または B の場合は例外とする。 A. 本研究科修士課程英語教育専攻に在学し、2027 年 3 月までに修士学位取得見込の場合。 B. 英語を媒介とするプログラム（EMI）で学士、あるいは修士の学位を取得している場合。 上記各スコア票が試験実施機関から**出願締切日までに本研究科事務所へ直接送付される**ように、志願者自身が早めに依頼すること。 ※依頼から送付先への到着までに、Official Score Report (TOEFL)では 4~6 週間程度、Test Report Form(IELTS)では 2~3 週間程度要するとされています。直送の証明書が到着しない場合、出願書類不備となります。 ※Test Report Form(IELTS)の依頼時は、必ず簡易書留等の追跡できる形で送ってもらうよう、試験実施機関に依頼してください ○TOEFL 実施機関 Web ページ　https://www.ets.org/ Official Score Report (TOEFL)の送付に必要なコード **DI コード：G129** ※早稲田大学でも複数の送付先コードがあります。必ず、上記コードを入力してください。 ○IELTS 実施機関 Web ページ　https://www.ielts.org/ Test Report Form (IELTS)　送付先は以下を記入してください 〒169-8050　東京都新宿区西早稲田１－６－１ 早稲田大学大学院教育学研究科事務所　入試係宛	△	△	×	△
コピー	**英語能力スコア報告書** **・TOEFL のスコア報告 または** **・IELTS Academic または IELTS for UKVI Academic のスコア報告** **【英語科教育学・内容学志願者は原則全員提出。 数学科教育学・内容学志願者の外国学生入試の志願者のうち、 該当する者のみ提出】** 暫定的にスコアを明示する書類として、前項の「英語能力証明書」に加えて、手許にあるスコア報告のコピーまたはネット上のスコア確認画面を印字したもののどちらかを提出してください。 あくまでも暫定的な書類であり、スコア証明としては実施機関から大学への直送による証明書が必要となります。	△	△	×	△
原本	**国費留学生証明書** **【早稲田大学の国費留学生は提出不要】** ・国費の期間が明記してあるもの。2027 年 3 月で期間が終了する場合は、延長申請書のコピーも提出してください。	×	×	△	×
原本	**改姓を証明できる公的証明書（戸籍抄本等）** **【改姓により志願票と各証明書の氏名が異なっている場合のみ】**	△	△	△	△

様式名	提　出　書　類	一　般	専　門 職業人	国　費 外国人 留学生	外　国 学　生
原本の コピー	**日本語能力証明書** 以下の**A**または**B**のいずれかの方法で提出すること。 **A 日本語能力試験１級／Ｎ１の「合否結果通知書」(「日本語能力認定書」は不可)の原本　１部。**（コピー不可。試験実施年度は問いません） **B 日本留学試験「日本語」260 点以上の「成績確認書」**（EJU オンラインから印刷）**、および受験票のコピー　各１部。** （出願締切日から遡って 2 年以内に実施された試験のスコアに限ります） ※日本留学試験「日本語」は、聴解・聴読解（200 点）、読解（200 点）の計 400 点のうち 260 点以上となります。記述問題は含まれません。 ただし、教科教育学専攻のうち、 ・英語科教育学・英語科内容学の志願者 ・数学科教育学・数学科内容学の志願者で、「英語能力証明書」を提出する者 はこれらの証明書を提出する必要はありません。	×	×	×	△
博士後期 課程 様式-⑧	**提出書類返還依頼書** ・再発行が可能な書類の返還は一切行いません。（公証書、成績証明書、推薦状など）	×	×	×	△
博士後期 課程 様式-⑨	**推薦状** 【教育基礎学専攻のみ提出。教科教育学専攻は不要】 ・所定様式のものを推奨しますが、所定様式以外の推薦状でも出願は可能です。推薦状は、2025 年 4 月以降に発行されたもののみ有効になります。 ・推薦状は**必ず推薦者による厳封が**されたものを提出してください。**厳封が無いものは原則無効といたします**。また推薦状は日本語または英語で作成してください。それ以外の言語で作成する場合は日本語または英語訳を作成し、推薦状の原本と一緒に提出してください。特に公証は必要ありません。 ・推薦者による厳封とは、封をした箇所への推薦者の署名や捺印があり、推薦者によって封が閉じられたことが明瞭である状態をいいます。 「厳封」は、封筒のふたをただ糊付けしたり、厳重にテープ等で貼り付けるだけでは足りません。また、開封された場合は厳封扱いとなりません。 ・推薦者によって厳封された推薦状をそのまま本研究科あてに郵送してください。	×	×	×	△
博士後期 課程 様式-⑩	**留学にかかる経費負担計画書** ・所定の用紙に、本学に留学する間の総費用（3 年分の学費及び生活費）をどのように負担するのかについて、日本語または英語で記入してください。 ※志願者本人の署名を忘れないようにしてください。 ・経費負担計画書の「政府またはその他財団（Government/sponsoring agency）」の欄に記入された方は、給付金額および給付期間を明示した奨学金の給付に関する証明書を提出してください。	×	×	×	○
原本の コピー	**「在留カード」のコピー（表・裏両面）および「身分証明書（パスポート）」のコピー** **【入試区分によらず、外国籍の出願者は提出必須】** ・「在留カード」は、表・裏両面のコピーを提出してください。これに加えて、「身分証明書（パスポート）」の写真が掲載されたページのコピーも提出してください（有効期限に注意をしてください）。在留資格を有していない場合は、写真掲載ページのみ提出してください。	△	△	△	○
原本の コピー	**検定料海外送金申請書のコピー** ・国外出願者で、海外から検定料を振り込んだ場合のみ提出してください。	×	×	×	△
原本	**翻訳公証書**	×	×	×	△
コピー	**志願者情報 Web 登録の「申請通知」**	○	○	○	○
	入学試験出願書類　チェックリスト	○	○	○	○

８．受験票の送付

① 出願受付後、志願票 No.1 に記載されたメールアドレス宛に受験票を送付します。
② 試験日間近になっても受験票が届かない場合は、本研究科までお問合せください。
③ 受験票は、入学後学生証の交付時に必要となりますので、大切に保管してください。

９．試験科目・試験方法

★ 一般入試、外国学生入試

<table>
<tr><th rowspan="2">専　攻</th><th colspan="3">試験会場：早稲田キャンパス 16 号館等</th></tr>
<tr><th>志望する
研究指導</th><th>出身研究科</th><th>筆記試験
2 月 5 日（金）
10:30～12:00
(集合 10:15)</th><th>口述試験
2 月 5 日（金）
14:30～
(集合 14:15)</th></tr>
<tr><td>教育基礎学
専　攻</td><td>全研究指導</td><td></td><td>資料解読</td><td rowspan="7">主として専門研究領域に関わる分野についてのこれまでの研究課題および研究計画について口述試験※を行います。

※教科教育学専攻英語科教育学・英語科内容学については、状況により英語での口述試験もありうる。</td></tr>
<tr><td rowspan="6">教科教育学
専　攻</td><td>国語科教育学
国語科内容学</td><td></td><td>資料解読</td></tr>
<tr><td>英語科教育学
英語科内容学</td><td></td><td>専門英語</td></tr>
<tr><td rowspan="2">社会科教育学
社会科内容学</td><td>本研究科修士課程出身者</td><td>―――――</td></tr>
<tr><td>本研究科修士課程以外の出身者</td><td>資料解読</td></tr>
<tr><td rowspan="2">数学科教育学
数学科内容学</td><td>本研究科修士課程出身者</td><td>―――――</td></tr>
<tr><td>本研究科修士課程以外の出身者</td><td>資料解読</td></tr>
</table>

【注１】修士論文、またはそれに相当する業績の内容を合否判定の一つの評価の基準とします。
【注２】「本研究科修士課程出身者」には、今年度３月末までに「取得見込み」の方も含みます。ただし、複数の修士等の学位を取得された方で、出願書類様式-④「業績書」に本研究科以外での修士論文を記載された場合は、「本研究科修士課程以外の出身者」となります。

筆記試験における辞書・辞典・資料等の使用について　　【注】電子辞書の使用は認めません。

<table>
<tr><th colspan="2">志望する研究指導</th><th>使用を許可する辞書・辞典等</th></tr>
<tr><td colspan="2">教育基礎学専攻の全研究指導</td><td>英和辞書１冊に加え、研究指導（坂倉裕治）を希望する受験者については仏和辞書１冊の使用を認めます。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">教科教育学
専　攻</td><td>国語科教育学
国語科内容学</td><td>辞書・辞典・資料等の使用を一切認めません。</td></tr>
<tr><td>英語科教育学
英語科内容学</td><td>辞書等の使用を一切認めません。</td></tr>
<tr><td>社会科教育学
社会科内容学</td><td>辞書・辞典・資料等の使用を原則認めません。
【ただし、日本史領域の受験者については、「くずし字辞典・古文書解読辞典」などの中から１冊、辞典等の使用を認めます。また、研究指導（石濱裕美子）を希望する受験者については、『蔵漢大辞典』などのチベット語辞書から一種類の使用を認めます。】</td></tr>
<tr><td>数学科教育学
数学科内容学</td><td>英和辞書１冊のみ使用を認めます。</td></tr>
</table>

★ 専門職業人入試

専　攻	試験会場：早稲田キャンパス 16 号館		
	志望する研究指導	筆記試験 2 月 5 日（金） 10:30～12:00(集合 10:15)	口述試験 2 月 5 日（金） 14:30～(集合 14:15)
教育基礎学専攻	全研究指導	小論文（資料解読を含む）	主として専門研究領域に関わる分野についてのこれまでの研究課題および研究計画について口述試験を行います。 ※教科教育学専攻英語科教育学・英語科内容学については、状況により英語での口述試験もありうる。
教科教育学専攻	国語科教育学 国語科内容学		
	英語科教育学 英語科内容学	専門英語	
	社会科教育学 社会科内容学	小論文（資料解読を含む）	
	数学科教育学 数学科内容学		

【注】　辞書・辞典・資料類の持ち込みは全て不可とします。

★ 国費外国人留学生入試

専　　攻	試験会場：早稲田キャンパス 16 号館	
	筆記試験 2 月 5 日（金） 10:30～12:00(集合 10:15)	口述試験 2 月 5 日（金） 14:30～(集合 14:15)
教育基礎学専攻	志望する研究指導担当教員の指定する言語による小論文（注１）	主として専門研究領域に関わる分野についてのこれまでの研究課題、および研究計画について口述試験を行います。 ※教科教育学専攻英語科教育学・英語科内容学については、状況により英語での口述試験もありうる。
教科教育学専攻		

【注１】研究指導担当教員の指定する言語については、出願受付後、本研究科事務所からお知らせします。
【注２】辞書・辞典・資料類の持ち込みは全て不可とします。

１０．試験日および合格者発表日

入試区分	筆記・口述試験日	合格者発表日
一 般 入 試	2027 年 2 月　5 日(金)	2027 年 2 月　8 日(月)
専門職業人入試		
国費外国人留学生入試		
外国学生入試		

１１．試験会場

入試区分	試験会場
一 般 入 試	早稲田キャンパス　１６号館等（予定） 試験教室（筆記・口述試験ともに）は、試験当日に１６号館２階入口に掲示します。
専門職業人入試	
国費外国人留学生入試	
外国学生入試	

１２．合格者発表場所および時間

入試区分	発表場所・時間
一 般 入 試	・合格者発表日の 10:00 に教育学研究科 Web ページに合格者受験番号表を掲載します。 https://www.waseda.jp/fedu/gedu/ ・最終合格者には合格証明書および入学手続に係る書類を送付します。なお、不合格者には書類は何も送付されません。 ・合否の問合せには応じません。
専門職業人入試	
国費外国人留学生入試	
外国学生入試	

１３．受験上の注意事項等について

（１）受験上の注意

① 受験生は各科目の試験開始 15 分前には試験場に入場してください。
② 試験場には受験票・筆記用具を持参し、受験票は机上に置いてください。
③ 筆記用具は黒（HB）の鉛筆またはシャープペンシルとします。
④ 第 1 次試験日の第 1 時限目試験開始後 20 分を経過してからの入場は一切認めません。
⑤ 第 2 次試験日の試験開始後 20 分を経過してからの入場は一切認めません。
⑥ 試験教室に時計は設置していませんので、必ず各自で持参してください。
⑦ 学校保健安全法で出席の停止が定められている感染症（新型コロナウイルス感染症、インフルエンザ、麻疹、風疹等）に罹患し治癒していない場合、他の受験生や監督員等への感染の恐れがあるため、受験をご遠慮ください。
⑧ ⑦に該当しない場合でも、試験当日までに発熱等の症状がある場合は、かかりつけ医等に相談のうえ、当日の受験を見合わせる等、その指示に従ってください。
⑨ ⑦⑧により欠席した場合でも、本学が特別な対応を公表した場合を除いて、追試験の実施や検定料の返還は行いません。
⑩ 受験に際しては 1 週間程度前から検温を行うなど、体調管理を徹底してください。
⑪ 基本的な感染予防対策（手洗い等の手指衛生や咳エチケット等）を徹底してください。なお、本学ではマスクの着用は個人の判断に委ねます。なお、写真照合の際など、一時的にマスクを外すことを求めることがあります。
⑫ 来場後、体調が優れない場合や異変を感じる場合は、早めに申し出てください。
⑬ 試験当日は救護所に医師が待機しています。試験中に体調が悪くなった場合には、その旨を監督員にすみやかに申し出てください。また、体調不良が疑われる受験者に対して、監督員が救護所での診察を促す場合もあります。ただし、移動や診察等に時間がかかった場合でも試験時間の延長は認めません。
⑭ 追加の情報がある場合は、研究科 Web ページ（https://www.waseda.jp/fedu/gedu/）にてお知らせします。

試験時間中に使用を認めない物品の一例を以下に示します。

物品	備考
通信機能のある電子機器（携帯電話、スマートフォン、スマートウォッチ、スマートグラス、ワイヤレスイヤホン等）	時計としての使用も認めません。必ず電源を切って、かばんにしまってください。試験時間中にかばんの中にしまっていなかった場合には、受験者の故意・過失に関わらず、その電源が切られている状態であっても、不正行為認定の対象となります。
その他通信機能のない電子機器（電卓・電子辞書・音楽プレーヤー・IC レコーダー・イヤホン等）	必ず電源を切って、かばんにしまってください。
耳栓	試験監督員の指示が聞こえない可能性があるので使用を認めません。
飲食物	ペットボトル飲料、飴、ガム等を含みます
黒鉛筆・シャープペンシル以外の筆記用具（ボールペン、蛍光ペン、赤ペン等）、筆箱、辞書	
帽子等	フードの着用も認めません。

（2）不正行為について

早稲田大学では、入学試験を厳正に実施し、全ての受験者が公平・公正に受験できるよう、適切な試験環境の保持に努めています。

本学入学試験の受験に際しては、以下に定める注意事項を熟読のうえ、真摯な態度で試験に臨んでください。

a．出願の際に本学に提出した書類・資料、提供した情報等（以下、「本提出書類等」といいます。）に偽造・虚偽記載・剽窃等があった場合は、不正行為認定の対象となります。

b．次のことをすると不正行為認定の対象となります。

① カンニングをすること（試験時間中にカンニングペーパー・参考書等を隠し持つ、使用する、他の受験者の答案等を見る、他の人から答えを教わる、身体、物品、机等にメモをする、メモを見るなど）。
② 試験時間中に使用できる物品以外の物品を使用すること（机上に置くこと、身に付けることを含む）。
③ 監督員による「試験開始です。」の指示の前に、問題冊子・解答用紙に触れること（冊子を開く、解答を始める、裏面・余白等に書き込みを行うなど）。
④ 監督員による「試験終了です。筆記用具を置き、解答用紙を裏返しにしてください。」の指示に従わず、筆記用具を持っていたり解答を続けたりすること。
⑤ 試験時間中に、答えを教える等他の受験者を利するような行為をすること。
⑥ 試験時間中に電子機器等の音（着信・アラーム・振動音等）を鳴らすこと。
⑦ 試験場において他の受験者の迷惑となる行為をすること。
⑧ 試験場において監督員等の指示に従わないこと。
⑨ 受験者以外のものが受験者本人になりすまして試験を受けること。
⑩ 解答用紙を持ち帰ること。
⑪ その他、試験の公平性・公正性を損なう行為をすること。

c．不正行為の疑いがある場合、次のような対応をとることがあります。これらに応じない場合、不正行為を自認したものとみなします。

・監督員等が注意をする、または事情を聴くこと。
・別室または別席での受験を求めること。
・本提出書類等につき、その真正性等を確認するために、本学が発行元・提供元または論文審査機関等に対して、本提出書類等を提供して問合せをすること。出願者は本提出書類等を本学に提出または提供したことをもって、本学がこの問合せを行うことに同意したものとする。

d．不正行為と認められた場合、次のような対応をとります。

・当該年度における本学の全ての入学試験の受験を認めないこと（入学検定料は返還しない）。
・当該年度における本学の全ての入学試験の結果を無効とすること。

なお、入学後に不正行為と認められた場合は、本学規程に基づき入学取消とします。

大学が極めて悪質かつ重大であると判断した不正行為については、警察への通報や不正行為者の在籍（出身）校・保護者等への報告を行う場合があります。

（3）受験環境について

◆ 可能な限り公平・静粛な受験環境の確保に努めますが、やむを得ず以下のような対応をとることがあります。

① 生活騒音（航空機・自動車・風雨・空調の音、周囲の受験者の咳・くしゃみ・鼻をすする音、携帯電話等の鳴動など）が発生した場合でも、原則として特別な措置は行いません。また、試験中に監督員が小声で最低限の打ち合わせを行う場合がありますが、この場合も原則として特別な措置は行いません。
② 試験中に携帯電話や時計等の音・振動などが発生し、発生源のかばんなどが特定できた場合、持ち主の同意なく監督員が試験場外に持ち出し、鳴動を停止させ、試験本部で保管することがあります。
③ 隣席の受験者の手洗いや、体調不良による入退室のため、監督員の指示により席を立っていただくことがあります。その場合でも、原則として試験時間の延長等特別な措置は行いません。
④ 机、椅子、空調、音響設備等の試験教室による違いは一切考慮しません。
⑤ 他の受験者が迷惑と感じる行為がある場合、別室受験を求めることがあります。
⑥ 受験者の周辺より異音等が確認された場合、詳細を確認するため、監督員等が座席付近を重点的に巡回したり点検したりすることがあります。

◆ 不可抗力による事故等について

台風、地震、洪水、津波等の自然災害または火災、停電、その他不可抗力による事故等や交通機関の乱れが発生した場合、試験開始時刻の繰下げ、試験の延期等の対応措置をとることがあります。ただし、それに伴う受験者の不便、費用、その他の個人的損害については一切責任を負いません。

Ⅲ．入 学 手 続

１．手続書類の交付（予定）

入試区分	書類交付方法
一 般 入 試	2027 年 2 月 8 日（月）以降に合格者へ送付します。
専門職業人入試	
国費外国人留学生入試	
外国学生入試**（国内出願）**	
外国学生入試**（国外出願）**	

２．入学手続期間・方法

所定の期間内に、①入学手続情報の入力＜UCARO＞②入学手続料（登録料・学費・諸会費）の納入＜銀行振込＞、③入学手続書類提出＜郵送＞の３点を完了することにより、入学手続が完了します。
詳細は合格者宛に入学手続書類交付時に送付する「入学手続の手引き」にてお知らせします。

※「登録料」は、入学者に限り「入学金」に振り替えます。

入試区分	入学手続締切日
一 般 入 試	**入学手続料納入／Web 入学手続締切：2027 年 2 月中旬** **入学手続書類　提出締切：2027 年 3 月中旬**
専門職業人入試	
国費外国人留学生入試	
外国学生入試	

３．入学手続に必要な書類【ご参考】

・「住民票の写し」
・「修了・成績・学位取得証明書等」（出願時に、見込証明書を提出した合格者のみ）
※その他必要とする書類は「入学手続の手引き」にてお知らせします。

詳細は、合格者宛に送付する「入学手続の手引き」を参照してください。

（※）在留資格認定証明書申請について

本学へ入学を許可された外国籍学生は、在留資格「留学」を取得することができます。日本に入国するため在留資格を申請するには、まず日本国内の法務省出入国在留管理局に「在留資格認定証明書」を申請する必要があります。早稲田大学では入学手続を完了した国外出願の外国籍学生に限り、本人に代わって出入国在留管理局に「在留資格認定証明書」の代理申請を行います。代理申請後、「在留資格認定証明書」が出入国在留管理局より早稲田大学に交付されましたら、早稲田大学から申請者に郵送いたします。

「在留資格認定証明書」を受け取った後は、パスポートとともに日本大使館、領事館で「留学」ビザ（査証）を申請してください。「在留資格認定証明書」の交付には 1～2 ヶ月の時間を要します。

４．入学手続に必要な登録料・学費・諸会費【ご参考】

2027 年度　登録料・学費・諸会費

（単位：円）

専　攻	納入期	登録料	学費		諸会費		合　計	年度納入額
			授業料	演習料	学生健康増進互助会費	教育会費		
教育基礎学専攻 教科教育学専攻 （数学科内容学を除く）	入学時(春学期)	200,000	224,000	1,500	1,500	250	427,250	654,500
	秋学期	－	224,000	1,500	1,500	250	227,250	
教科教育学専攻 （数学科内容学）	入学時(春学期)	200,000	353,500	1,500	1,500	250	556,750	913,500
	秋学期	－	353,500	1,500	1,500	250	356,750	

（注意）１．本学の学部、大学院、専攻科の卒業、修了または退学者が再度本学に入学する場合、入学金が免除されます。詳細については、合格者に送付される「入学手続の手引き」をご参照ください。

２．第２年度、第３年度の授業料・演習料・学生健康増進互助会費・教育会費は次のとおりです。

専　攻	学年	学期	学費		諸会費		合　計	年度納入額
			授業料	演習料	学生健康増進互助会費	教育会費		
教育基礎学専攻 教科教育学専攻 （数学科内容学を除く）	第２年度	春学期	324,000	1,500	1,500	250	327,250	654,500
		秋学期	324,000	1,500	1,500	250	327,250	
	第３年度	春学期	324,000	1,500	1,500	250	327,250	654,500
		秋学期	324,000	1,500	1,500	250	327,250	
教科教育学専攻 （数学科内容学）	第２年度	春学期	453,500	1,500	1,500	250	456,750	913,500
		秋学期	453,500	1,500	1,500	250	456,750	
	第３年度	春学期	453,500	1,500	1,500	250	456,750	913,500
		秋学期	453,500	1,500	1,500	250	456,750	

３．実験実習を伴う研究指導・演習を受講する場合は、実験実習料を別途納めなければなりません。(予定)

初等教育学研究演習（河村）	15,000 円	特別支援教育学研究演習	15,000 円
臨床心理学研究演習	15,000 円	教育評価・測定研究演習	15,000 円
障害・神経心理学研究演習	15,000 円	学校心理学研究演習	15,000 円
発達・教育心理学研究演習	15,000 円		
社会科教育学研究指導（池）	10,000 円	社会科内容学研究指導（久保、箸本、山内）	10,000 円

４．演習料、実験実習料、諸会費は改定されることがあります。

一度提出した書類および納入した登録料、学費・諸会費（春学期分）は、原則として返還しません。
ただし、やむを得ない事情により入学を辞退する場合や、入学までに入学資格を満たさなかった場合には、学費・諸会費（春学期分）のみ返還の対象となります。また、複数の研究科から入学を許可された場合、本人からの申し出により、先に入学手続を行った研究科に納入した登録料・学費・諸会費（春学期分）を入学希望研究科に振り替え、入学研究科を変更することができます（ただし、入学手続期間が重ならない研究科間に限ります）。手続方法の詳細は、合格者に送付される「入学手続の手引き」をご参照ください。

５．外国学生（外国籍）の方へ

在留資格についての Web ページ：http://www.cie-waseda.jp/visastatus/jp/index.html

在留資格「留学」の取得について

早稲田大学への入学を許可された外国学生は、在留資格「留学」を申請することができます。「留学」の在留資格を有する学生は、外国人留学生授業料減免や留学生対象奨学金を申請することができます。**「留学」以外の在留資格の場合は、上記のような留学生対象の各種補助制度は利用できませんのでご了承ください。**

「短期滞在」の在留資格で大学に在籍することはできませんので注意してください。以下の（１）～（６）をよく読んで、いずれかに該当する方は在留期間更新や在留資格変更、在留資格認定証明書交付申請など必要な在留手続を行ってください。**在留手続を行うには振込を完了していることが必要です。**手続に「入学許可書」が必要な場合は、振込を完了した後、教育学研究科事務所に発行を依頼してください。

（１）　「留学」の在留資格を有している場合

現時点ですでに「留学」の在留資格を有している場合は、必要に応じて「在留期間更新許可申請」を行ってください。手続に関する詳細は、早稲田大学留学センターの在留資格のWebページ内、「入学前の方へ」の「「留学」の在留資格を持っている方」を参照してください。

（２）　「短期滞在」の在留資格を有している場合

現時点で「短期滞在」の在留資格を有している場合は、原則として一度国外へ出て「留学」の在留資格を申請する必要があります。「留学」の在留資格の申請方法については、**「（４）在留資格を有していない場合」**を参照してください。

（３）　上記以外の在留資格を有している場合

現在の在留資格に該当する活動が終わる場合は、「留学」の在留資格に変更が必要です。「家族滞在」など、状態が変わらない場合は必要に応じて在留資格を変更してください。手続に関する詳細は、早稲田大学留学センターの在留資格のWebページ内、「入学前の方へ」の「「留学」以外の在留資格を持っている方」を参照してください。

【注】在留期間更新許可申請および在留資格変更許可申請には、早稲田大学の押印のある書類が必要です。出入国在留管理局に申請する前に、申請書、入学許可書およびその他申請に必要な書類を大学に提出する必要がありますので注意してください。

（４）　在留資格を有していない場合

在留資格を申請するには、まず日本国内の出入国在留管理局に「在留資格認定証明書」（Certificate of Eligibility＝ＣＯＥ）を申請する必要があります。早稲田大学では**入学手続を完了した国外居住の外国籍学生に限り、**本人に代わって出入国在留管理局にＣＯＥの代理申請を行います。**必要書類を書留便（国際スピード郵便等）で早稲田大学留学センターへ送付してください。**代理申請後、ＣＯＥが出入国在留管理局より交付され早稲田大学に送付されましたら、早稲田大学留学センターから申請者に送ります。ＣＯＥを受け取った後は、パスポートとともに持参し、国籍を有する国または居住国の日本大使館、領事館で「留学」ビザ（査証）を申請してください。ＣＯＥの有効期間は３か月です。有効期間内にビザを取得し渡日する必要があります。出入国在留管理局での審査には２か月程度を要しますので、申請が入学直前にならないよう注意してください。

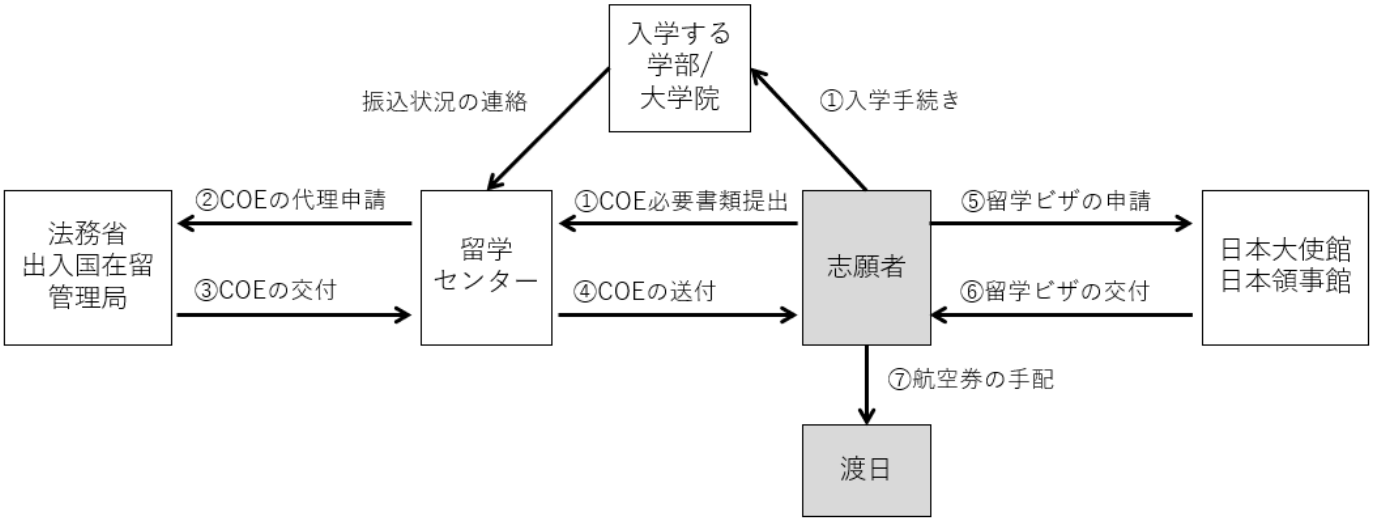
【注】**代理申請は、振込を完了しないと行いません。**希望者は、すみやかに振込を済ませ、早急に手続を行ってください。

【注】代理申請に必要な書類と送付先については21ページの「在留資格認定証明書代理申請依頼書」をご覧ください。

【留学ビザ取得までの流れ（①→⑦）】

※　留学ビザ交付にかかる日数は大使館、領事館によって異なり、場合によっては３週間ほど要します。

※　留学センターにＣＯＥ申請書類を提出後、申請予定の日本大使館・領事館へ連絡して、おおよその所要日数を把握しておいてください。



（５）　在留資格の取得、変更（自己申請）

〈査証免除／短期滞在の資格で入国している場合〉

査証免除／短期滞在（観光、商用、知人・親族訪問等９０日以内の滞在で報酬を得る活動をしない場合）で入国した場合、原則として一度出国し、国籍を有する国または居住国の日本大使館・領事館でＣＯＥを提出し、留学ビザを取得してから再入国してください。しかしながら、入学試験日が年度末（２月末、３月）でＣＯＥの交付が遅く、新学期前に帰国が難しい場合は、ＣＯＥが発行されたら、出入国在留管理局で資格変更許可申請を行うことは可能です。ただし、例外的な申請となりますので、在留資格の変更が許可されない場合もあります。在留資格審査は出入国在留管理局が行うため、審査の期間や結果について、本学は一切責任を負いません。

【注】３０日以内の短期滞在の資格の場合、日本での資格変更はできませんので、一度出国し、国籍を有する国または居住国の日本大使館・領事館でＣＯＥを提出し、留学ビザを取得してから再入国してください。

（６）　その他注意事項

・早稲田大学留学センターが代理申請を行う在留資格は「留学」のみです。その他の在留資格を申請する場合は、自身で出入国在留管理局に申請してください。
・必要に応じて、出入国在留管理局から追加書類を要求されることがあります。
・事情により早稲田大学への入学を辞退する場合は、至急留学センターにお知らせください。また、他大学にも合格した場合、ＣＯＥの交付申請が重複しないように注意してください。重複している場合、ＣＯＥは交付されません。
・重国籍者で日本国籍を有する場合は、ＣＯＥを申請できません。
・在留資格審査は出入国在留管理局が行うため、交付が遅れる場合や不許可となった場合、航空券の違約金等、本学は一切の責任を負いません。渡航手配は慎重に行ってください。
・在留資格「留学」の手続に関しては早稲田大学留学センター（E-mail : cie-zairyu@list.waseda.jp）へ問合せてください。

フィリピン/ベトナム/インドネシア/ネパール/ミャンマー/中国の国籍を有する志願者は、在留資格認定証明書（COE）の申請時に、通常の申請書類に加えて、結核を発病していないことを証明する「結核非発病証明書」の提出を求められます。国によって適用開始時期が異なりますので、対象国の国籍を有する方は、以下の資料で詳細を必ずご確認ください。
https://www.waseda.jp/inst/cie/news/40765

<在留資格認定証明書代理申請依頼書>

◎下記書類をすべて同封のうえ，書留便(国際スピード郵便等)を利用して早稲田大学留学センターへ送付してください。

【在留資格認定証明書の申請に必要な書類】　＊同封した書類に☑チェックをしてください。

□ ①在留資格認定証明書交付申請書(3 ページ。6 ヵ月以内に撮影した顔写真 1 枚添付)
記入例

□ ②在留資格認定証明書(COE)交付申請書類チェックリスト

□ ③各種確認書　※記入例を必ず確認し、2番以外を書いてください。(2番は大学が記入します。)
記入例

□ ④パスポートのコピー(顔写真のページ。別ページに名前について注釈がある場合はそのページも必要)

□ ⑤経費支弁書(本人以外の方が経費を負担する場合)

□ ⑥経費支弁に関する書類

1	本人が経費を負担する場合	預金残高証明書※1(本人口座)
2	奨学金を受給する場合	奨学金受給証明書　※2
3	本人以外が経費を負担する場合	預金残高証明書※1(経費負担者の口座)および経費支弁書

※1 預金残高証明書:口座名義人名、銀行名、日付、預金残高が確認できるもの。
預金残高の目安:少なくとも半年分の学費と生活費の合計額を満たしていること。
(預金残高証明書の通貨が日本円以外の場合は留学センターで日本円に換算して確認します。)
・生活費(住居費を含む):1か月あたり 20 万円程度。
・学費:所属の学部・研究科による。
日本語・英語以外の言語の場合は日本語訳または英訳を添付すること(翻訳公証は不要)。

※2 奨学金受給証明書
月額分が生活費と学費の月額分に満たない場合は、その不足分の補填を証明しうる預金残高証明書等もあわせて提出してください。

□ ⑦在留資格認定証明書代理申請依頼書(本様式)

□ ⑧結核非発病証明書
※フィリピン/ベトナム/インドネシア/ネパール/ミャンマー/中国の国籍を有する志願者は、在留資格認定証明書(COE)の申請時に、通常の申請書類に加えて、結核を発病していないことを証明する「結核非発病証明書」の提出を求められます。国によって適用開始時期が異なりますので、対象国の国籍を有する方は、以下の資料で詳細を必ずご確認ください。
https://www.waseda.jp/inst/cie/news/40765

「在留資格認定証明書」の審査には 2-3 か月を要するため、早めに提出し入学金・学費振込を速やかに完了することを推奨します。

宛先 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 1-7-14-4F　早稲田大学留学センター「在留資格代理申請」係
(英字)Student Visa Section, Center for International Education, Waseda University
1-7-14-4F Nishi-Waseda, Shinjuku-ku, Tokyo 169-0051, Japan
TEL: 03-3203-9806

問い合わせ先 cie-zairyu@list.waseda.jp

氏名 (**英字表記**)	
住所 (**英字表記**)	
電話番号	
E メールアドレス	COE は電子交付となり E メールで送られます。変更があった場合は直ちにご連絡ください。
入学予定学部/研究科	
受験番号	

６．特定国からの志願者に対する検定料免除措置制度

以下の１．に掲げる条件に合致する出願者は、本人からの申請に応じて入学検定料を免除します。

１．適用条件

文末に記載の対象国に居住し、かつ対象国の国籍を有する者。

*居住国と国籍は同一の国である必要はありません。

*重国籍の場合は、いずれの国籍も前項の国に該当していることが必要です。

２．免除申請手続

出願書類として提出を求めている入学検定料支払証明書の替わりに以下の書類を提出してください。

１）検定料免除措置申請書（所定様式）

２）パスポートのコピー（本人に関する記載事項の全ての欄）

３．注意

１）出願期間終了後の申請はいかなる理由でも受け付けません。

２）本免除申請をする場合は、検定料を支払う必要はありません。誤って支払ってしまった場合、入学検定料の返還は行いませんのでご注意ください。

３）万が一、申請者が本免除措置の対象とならない場合や、虚偽の申請があった場合は、検定料は免除になりませんのでご注意ください。

［対象国*］

アフガニスタン、アンゴラ、バングラデシュ、ベナン、ブルキナファソ、ブルンジ、カンボジア、中央アフリカ、チャド、コモロ、朝鮮民主主義人民共和国、コンゴ民主共和国、ジブチ、エリトリア、エチオピア、ガンビア、ギニア、ギニアビサウ、ハイチ、キリバス、ラオス、レソト、リベリア、マダガスカル、マラウイ、マリ、モーリタニア、モザンビーク、ミャンマー、ネパール、ニジェール、ルワンダ、セネガル、シエラレオネ、ソロモン諸島、ソマリア、南スーダン共和国、スーダン、シリア・アラブ共和国、タンザニア、東ティモール、トーゴ、ツバル、ウガンダ、イエメン、ザンビア

*OECD/DAC が発行する ODA 受給国リストに掲載される「Least Developed Countries」「 Low Income Countries which are not LDCs」の認定国

7．提携金融機関（オリコ・楽天銀行）による「早稲田大学学費ローン（入学時）」

提携金融機関（オリコ・楽天銀行）による「早稲田大学学費ローン（入学時）」

本学には、㈱オリエントコーポレーション（以下オリコ）、楽天銀行(株)と提携した「早稲田大学学費ローン制度」があり、入学時納入金に利用することができます。

本学費ローン利用にあたっては、自己責任のもと、申込期日や手続期日等の日程に注意し手続をしてください。なお、審査結果により、利用できない場合があります。

■学費ローン（入学時）の概要

対象者	本学入学予定者の保護者、および入学予定者本人（満 20 歳以上） ※外国人留学生は利用できません。 ※審査結果により、利用できない場合があります。
対象費用	入学時の大学宛納入金額（登録料（入学金相当額）および学費等（春学期分））
分割払手数料率（実質年率）	提携金融機関により異なります。
入金方法	利用金額は金融機関から本学へ直接入金されます。※利用者への入金はございません。

■利用手順

早稲田大学奨学課のホームページ（https://www.waseda.jp/inst/scholarship/）に、**学費ローンのインターネット申込用ページを公開**しています。申込期日・申込方法・手続等の詳細はこちらをご覧ください。

■返済方法

本学費ローン利用の翌月より、指定口座から自動振替されます。返済方式は提携金融機関によって異なります。

■問合せ先

株式会社オリエントコーポレーション　学費サポートデスク
（営業時間 9：30～17：30　　土日・祝日を除く）

〒102-8503　東京都千代田区麹町 5 丁目 2 番地 1　Tel. 0120-517-325　Fax. 052-231-3911

楽天銀行株式会社　教育ローン専用ダイヤル
（受付時間　平日 9：00～20：30 土日・祝日　10:00～17:30）

〒108-0075　東京都港区港南 2-16-15　NBF 品川タワー　　Tel. 0120-61-6910
※必要書類の送付は原則スマートフォンアプリでの提出となります。郵送も可。

Ⅴ．募集研究指導一覧・研究指導の内容

１．募集研究指導一覧

※募集する研究指導は変更になる場合があります。出願の際は必ず最新の要項で研究指導をご確認ください。
　変更した場合は、Web ページ各入学試験要項の変更履歴にも掲載します。

※★印の研究指導は、2030 年 4 月 1 日以降は退職に伴い廃止となります。
※（2026/11/18 更新）募集研究指導の一部を廃止し、募集研究指導一覧を変更しています。

[教育基礎学専攻]

教育学研究指導	教授	博士(教育学)　北海道大	三上　敦史
教育学研究指導	教授	博士(教育学)　慶應大	坂倉　裕治
教育学研究指導	教授	博士(教育学)　筑波大	根津　朋実
教育学研究指導	教授		菊地　栄治
教育学研究指導	教授	博士(教育学)　早稲田大	鴨川　明子
教育学研究指導	教授	博士(教育学)　早稲田大	阿内　春生
教育学研究指導	教授		三尾　忠男
教育学研究指導	教授	博士(教育学)　東京大	濱中　淳子
初等教育学研究指導★	教授	博士(心理学)　筑波大	河村　茂雄
初等教育学研究指導	教授	博士(教育学)　早稲田大	佐藤　隆之
初等教育学研究指導	教授	博士(教育学)　東京学芸大	大泉　義一
初等教育学研究指導	教授	博士(教育学)　東京学芸大	佐藤　寛之
教育心理学研究指導	教授	博士(教育学)　東京学芸大	上淵　寿
教育心理学研究指導	教授	Ed. D.（ｺﾛﾝﾋﾞｱ大）	本田　恵子
教育心理学研究指導	教授	博士（心身障害学）　筑波大	岡崎　慎治
教育心理学研究指導	教授	博士(教育学)　早稲田大	安達　智子
社会教育学研究指導	教授	博士(教育学)　早稲田大	坂内　夏子

[教科教育学専攻]

国語科教育学研究指導	教授	博士(教育学)　早稲田大	幸田　国広
国語科教育学研究指導	教授	博士(教育学)　早稲田大	菊野　雅之
国語科内容学研究指導★	教授		松木　正恵
国語科内容学研究指導	教授		仁科　明
国語科内容学研究指導	教授	博士(文学)　早稲田大	松本　直樹
国語科内容学研究指導	教授	博士(文学)　早稲田大	新美　哲彦
国語科内容学研究指導	教授	博士(文学)　早稲田大	福家　俊幸
国語科内容学研究指導	教授	博士(文学)　大阪大	海野　圭介
国語科内容学研究指導	教授	博士(文学)　神戸大	天野　聡一
国語科内容学研究指導	教授	博士(文学)　大阪大	谷口　高志
国語科内容学研究指導	教授	博士(文学)　早稲田大	内山　精也
国語科内容学研究指導	教授	博士(文学)　慶應大	五味渕　典嗣
国語科内容学研究指導	教授	博士(文学)　早稲田大	和田　敦彦
国語科内容学研究指導	教授	博士(学術)　名古屋大	光石　亜由美
英語科教育学研究指導	教授	Ph. D.（ﾀﾞｰﾗﾑ大）	折井　麻美子
英語科教育学研究指導	教授	Ph. D.（ｶﾘﾌｫﾙﾆｱ大）	澤木　泰代
英語科教育学研究指導	教授	博士(学校教育学)兵庫教育大	オオガ - ボールドウィン　ウィリアム
英語科教育学研究指導	教授	博士(外国語教育学)　関西大	マキュワン　麻哉
英語科内容学研究指導	教授	Ph. D.（ﾍﾟﾝｼﾙﾍﾞﾆｱ州立大）	木村　大輔

英語科内容学研究指導	教授	Ph.D.(ﾊｰﾊﾞｰﾄﾞ大)	久野　正和
英語科内容学研究指導	教授	博士(文学)ﾃﾞｭｰｽﾌﾞﾙｸｰｴｯｾﾝ大	バックハウス　ペート
英語科内容学研究指導	教授	博士(文学) 上智大	新川　清治
英語科内容学研究指導	教授	博士(文学) 九州大	虹林　慶
英語科内容学研究指導	教授	博士(人文科学) お茶の水女子大	松永　典子
英語科内容学研究指導	教授	Ph.D.(ﾚｽﾀｰ大)	閑田　朋子
英語科内容学研究指導	准教授	D.Phil. (ｵｯｸｽﾌｫｰﾄﾞ大)	三好　力
英語科内容学研究指導	教授	Ph.D.(ｳｨｽｺﾝｼﾝ大ﾏﾃﾞｨｿﾝ校)	佐久間　由梨
英語科内容学研究指導	教授	博士(文学) 慶應大	田ノ口　正悟
社会科教育学研究指導★	教授	博士(学術) 早稲田大	池　俊介
社会科教育学研究指導	教授	博士(教育学) 東京大	近藤　孝弘
社会科内容学研究指導	教授	博士(文学) 早稲田大	高木　徳郎
社会科内容学研究指導	教授	博士(文学) 早稲田大	大橋　幸泰
社会科内容学研究指導	教授	博士(学術) 神戸大	三村　昌司
社会科内容学研究指導	教授	博士(文学) 京都大	岡本　隆司
社会科内容学研究指導	教授	博士(文学) 早稲田大	石濱　裕美子
社会科内容学研究指導★	教授	博士(学術) 東京大	箸本　健二
社会科内容学研究指導	教授	博士(学術) 東京大	山内　昌和
社会科内容学研究指導	教授		遠藤　美奈
社会科内容学研究指導	教授		熊谷　善彰
社会科内容学研究指導	教授	博士(社会学) 東京大	若林　幹夫
社会科内容学研究指導	教授	博士(社会情報学) 東京大	野上　元
社会科内容学研究指導	教授	博士(社会情報学) 東京大	新藤　雄介
数学科教育学研究指導	教授	Doctorat ｸﾞﾙﾉｰﾌﾞﾙ第一大	宮川　健
数学科教育学研究指導	教授	博士(学術) 早稲田大	高木　悟
数学科内容学研究指導★	教授	理学博士(早稲田大)	新井　仁之
数学科内容学研究指導	教授	博士(数理科学) 東京大	梁　松
数学科内容学研究指導	教授	博士(数理科学) 東京大	戸松　玲治
数学科内容学研究指導	教授	博士(理学) 大阪大	村井　聡
数学科内容学研究指導	教授	Ph.D.(ﾌﾞﾗｳﾝ大)・ 博士(数理科学) 東京大	安福　悠
数学科内容学研究指導	教授	博士(理学) 京都大	小森　洋平
数学科内容学研究指導	教授	博士(情報学) 京都大	高島　克幸
数学科内容学研究指導	教授	博士(情報理工学) 東京大	谷　誠一郎
数学科内容学研究指導	教授	博士(理学) 早稲田大	谷山　公規
数学科内容学研究指導	教授	博士(理学) 早稲田大	安原　晃
数学科内容学研究指導	准教授	博士(数理科学) 東京大	山口　祥司

２．研究指導の内容

［教育基礎学専攻］

教育学研究指導　　三　上　敦　史

教育史は一次史料を大切にしつつも、周辺の史料群に目を配り、制度・政策・実態のありようや変遷を解き明かす学問である。すなわち目標とするのは教育・人間に関する問題を歴史的な文脈で説明する「作法」の習得なのであって、研究テーマや時代に制限はない。各自が選び取った研究テーマについて、どのような史料を用いて説明するのか、そのためにはどこで何をどう探索するのか、いかなる手法で分析・説明するのかといった具体的な研究活動を指導するとともに、博士論文の執筆に向けた支援を行う。

教育学研究指導　　坂　倉　裕　治

教育哲学は危機管理の学である。教育諸学を深めようとする学生、教職をめざす学生の双方にとって、予想外の困難を解決するためにとるべき思考の手順についての認識を磨くことが重要である。研究職をめざす学生には、文献研究において最低限守らなければならない作法・手続きを習得するための支援、文献研究に必須の外国語の運用能力向上のための支援を柱として指導する。留学や海外の研究機関と連携した研究活動についても支援する。

教育学研究指導　　根　津　朋　実

カリキュラム研究を中心に、修士論文の成果等を学術学会で発表し、学術論文にまとめるための指導を行う。修士論文の執筆と、その成果の対外的な発表とは、基本的に異質な作業である。博士課程においては、定期的な研究指導を通じ、自立したカリキュラム研究者としての基盤の形成を目指す。具体的には、カリキュラム研究や関連分野に関する諸実践を学術的に扱う、方法論の洗練に重きをおく。

教育学研究指導　　菊　地　栄　治

教育研究は「制度としての教育」の現実を丁寧に記述し、深く考究することから始まる。本研究指導では、方法主義や分断された科学のとらわれを乗り越えつつ、多元的現実との対話の中で問いを鍛え、先行研究を渉猟した上で、教育社会や学校組織等に具体的に還元できる知を協働生成していきたい。その際、国民国家／資本主義／近代を典型とするシステム化された呪縛を解くための学修が前提条件となる。

教育学研究指導　　鴨　川　明　子

比較教育学は、世界各国・地域における教育の現状と課題について、歴史的かつ現代的なアプローチにより明らかにする学問である。研究指導では、比較教育学領域の研究を行う者を対象に、国内外における学会発表や学術論文の作成に向けた指導をする。各自の研究テーマを、先行研究の選別と吟味、関連資料の収集と分析、比較という方法の検討と適用を通して、オリジナリティの高いものにするよう支援する。と同時に、研究テーマに関して、フィールドの手法や各種調査技法の基礎を踏まえた現地調査も推奨し、支援する。

教育学研究指導　　阿　内　春　生

教育行政学は、教育に関する行政・制度・政策などを分析し、教育の条件整備を追究する分野である。教育学に加えて、行政学、政治学、法学、社会学など隣接領域の専門知識および研究手法の習得が求められる。博士後期課程においては、学術論文や博士学位論文の執筆を中心に、さらなる研究の深化が必要となる。学術論文を執筆し、学会等の学術コミュニティにおいて評価を受けることは、研究室や学内に閉じた形でも進められがちな修士論文の執筆（もちろん、修士論文であってもそのような「閉じた」執筆は推奨されないが）とは大きく異なる。学術的意義を追究し、学術界への貢献を示して初めて、そのような評価を得ることができる。研究指導にあたっては、以上の前提のもと、独りよがりに陥ることなく、学術界に貢献し得る研究となるよう指導する。

教育学研究指導　　三　尾　忠　男

教育の諸課題を、システムズアプローチで分析し、工学的なアプローチで目標達成や問題解決を目指す分野である。この研究指導では、研究テーマについて教育システムの要素を分析し、その問題点を明確化し、最適なシステムを追求する研究方法を指導する。教育工学会等関連学会での発表も奨励したい。

教育学研究指導　　濱　中　淳　子

高等教育や高大接続、大学入学者選抜、あるいは就業後の学びをテーマにした学術論文をまとめるための支援を行う。具体的には、問いの設定、先行研究のレビュー、課題にせまるために適した調査の企画と実施、データの分析ならびに論文執筆といった一連の流れのなかで必要な指導を行う。また、関連学会の大会での発表や学外での共同研究等の活動についても奨励しているので、適宜助言をしていきたい。

初等教育学研究指導　　河　村　茂　雄

担当者の研究テーマは、人間の教育･発達を促進する人間関係、集団体験のあり方をカウンセリング心理学の立場から明らかにしていくことである。したがって、このような領域にかかわる研究者や教育及びカウンセリング指導者の育成を行いたい。研究テーマは、児童期・初等教育学を直接対象とするものだけではなく、教育･発達に関する全領域をその対象とするが、実証的研究であることが条件である。そして、各自のテーマに応じたデータの収集・分析、論文作成の指導を行う。関連する学会での活動も奨励したい。

初等教育学研究指導　　佐　藤　隆　之

初等教育（その前後の就学前教育や中等教育全般も視野に入れる）の理念、教育内容・方法、学校論などについて、思想や歴史を軸に研究指導を行います。その一環として、新教育（進歩主義教育）や経験主義に関する近年の文献を講読しながら、新たな知見を提起する論文が執筆できるように支援します。

初等教育学研究指導　　大　泉　義　一

芸術教育、とりわけ視覚芸術・デザインに関する教育のあり方に関する博士論文の作成に向け、理論・実践の両面から指導を行なう。また関連する学会等での発表や学外での実践・研究活動についても支援する。我国の美術教育実践を成立させている諸要件について、歴史的、社会的、文化的、実践的な諸側面から確認するとともに、今後の芸術教育のあり方について、デザインシンキングやスペキュラティブ・デザイン等の理論から検討する。また学校外での芸術体験の意義について、ワークショップの企画・開発・実践を通して実証的に探究してゆく。

初等教育学研究指導　　佐　藤　寛　之

理科教育における教授･学習論に関する博士論文の作成に向けて、理論と実践の両面について研究指導を行います。本研究指導では，学習者の自然認識や科学概念構築過程等について、認識論的観点をふまえて、理論的・実証的に探究していきます。そのため、関連学会等での発表や学外での教育実践・研究活動についても支援します。研究指導の範囲は、初等教育や中等教育全般とします。

教育心理学研究指導　　上　淵　　寿

発達心理学（特に感情、アタッチメント、自己）と教育心理学（特に学習動機づけおよび学習プロセス）に関する研究指導を行います。受講者が博士論文を作成するために必要なアイディアの発表などや討論なども行うことがあります。

さらに、ミニ博論を節目節目で提出してもらいます。これは、研究や論文執筆を指導教員がきちんと評価するためであり、また受講者が時期を経るごとに、博論をより良いものに発展させていくためです。

教育心理学研究指導　　本　田　恵　子

学校心理学の研究手法に基づき、実践研究を行いながら論文の作成を行ってゆく。テーマは、発達障害、矯正教育、学校カウンセリング、から選ぶ。

教育心理学研究指導　　岡　崎　慎　治

研究指導では，自閉スペクトラム症や ADHD など神経発達症を中心に，認知機能および情動調整の心理学的基盤と教育・支援への応用を特別支援教育および生理心理学的観点を中心に博士論文レベルで探究する。行動・認知課題，脳波をはじめとする生理指標，相互作用場面の会話・表情等の多層的データを統合し，発達障害児・者の特性理解と強み発揮を促す支援モデルの構築をめざす。修士課程で培った研究法・分析法に基づき，独自の研究計画の立案，倫理審査への対応，長期的データ収集と高度な解析，国内外学会発表や論文執筆まで，一貫して自立した研究者としての成長を支援する。

教育心理学研究指導　　安　達　智　子

修士課程からの積みあげを前提としてより高度で専門的な研究への取り組みを支援する。具体的には心理学の研究手法にもとづいた個人と社会の関わり、仕事社会への移行と適応プロセスの理解、キャリア教育、キャリア形成とその支援に関する研究を指導する。当該指導は、調査法を基軸とする心理学研究法、多変量解析をふくむ統計分析、心理学論文執筆等の知識とスキルならびに研究の遂行に必要な英語力を有しており、それらを活用した研究活動経験を有することを前提としている。

社会教育学研究指導　　坂　内　夏　子

本研究指導では、社会教育・成人教育・女性の主体形成を対象に、各自の研究テーマに基づく博士論文の完成をめざす。修士課程段階からの研究テーマの深化と発展を図りつつ、①問いの設定、②研究対象の調査、③先行研究の検討、④理論的・歴史的考察の深化、⑤論文執筆の各段階を支援する。

［教科教育学専攻］

国語科教育学研究指導　　幸　田　国　広

我が国の国語科教育について、その理論的・歴史的研究を行う院生を対象として、博士論文作成に向けた指導を行う。特に、歴史的事象の本質の検討、形成過程や変容プロセスの解明の仕方、理論から実践への応用や実践の理論化への方法等について考究したい。また、論証性と実証性の確かな研究論文の作成に留意したい。

国語科教育学研究指導　　菊　野　雅　之

本指導では、博士論文執筆に求められる国語科教育学研究のために必要な研究力を形成する指導を行います。国語科教育に関する資料読解や研究文献の精査・批評、学生による報告、授業実践報告などを通じて、博士論文執筆のために必要な研究力の形成を図ります。博士論文完成に向けた研究計画の作成、研究の進捗報告、論文投稿、学会発表などの支援も行います。

国語科内容学研究指導　　松　木　正　恵

日本語学（国語学）の各領域・分野について、各自の修士論文の成果の上に立って、研究テーマの深化と発展を期す。関係文献の閲読、それぞれの博士論文の進捗状況の発表等の機会を設けて全員で議論をし、研究方法の明確化と具体的な研究内容の進展を図る。それぞれの分野の研究水準を知るためにも、国内外の研究会・学会等への参加や学会発表・学会誌への論文投稿を積極的に促しつつ、最終的には、自立した研究者としての基盤の確立と博士論文の完成を目指す。

国語科内容学研究指導　　仁　科　　明

日本語学・日本語史の関連分野について、博士論文執筆に向けた指導をおこなう。事実の調査・分析、研究文献の精読と検討などを通して、基本的な研究技能と知識を身につけ、論点の明確化をはかる。

国語科内容学研究指導　　松　本　直　樹

『古事記』『日本書紀』『万葉集』や各国「風土記」などの作品に代表される上代文学および関連する古典教育分野の博士論文作成にむけた研究指導を行う。

国語科内容学研究指導　　新　美　哲　彦

平安時代における散文と後世の受容を中心に研究指導を行う。具体的には、物語文学・日記文学の領域で、ある作品およびその受容作品を分析し、先行研究を精査した上で、各自のテーマに基づいて考察を進め、学会での研究発表を行い、論文を執筆するまでの過程を指導する。博士論文を目指して、研究発表・論文執筆を行って欲しい。

国語科内容学研究指導　　福　家　俊　幸

中古文学を対象とする各自の修士論文の研究テーマをさらに発展させ、研究目的に適合する研究方法を広い展望と理解の中で深めて行く。作品、論文精読を通じて、中古文学にかかわる文化や歴史の深い知見の習得を求めたい。あわせて各自の研究の進捗状況に応じ逐次研究発表を重ね、論文作成に向けて指導を行う。

国語科内容学研究指導　　海　野　圭　介

平安時代後半から桃山時代頃までに成立した文芸とその周辺資料を中心に研究指導を行います。対象とする作品を時代の表現の達成や思想・信仰の中に位置づけ、作品の形成の具体相とその享受の展開、時代の文化への影響や相互関係等を分析し、学術学会で研究発表を行い学術論文とするまでの指導を行います。対象者には博士論文の計画立案と執筆を進め、学術学会での発表、学術論文の執筆を重ねることを求めます。

国語科内容学研究指導　　天　野　聡　一

近世文学を専門的に研究し、その成果を博士論文にまとめるために必要な知識や能力を涵養します。具体的には、一次資料（古典籍）や二次資料（論文）を精読するトレーニングを重ね、そこで得られた知見を随時、学会での口頭発表や学術誌への投稿につなげてゆき、さらに個別の論考を博士論文として体系化するまでの過程を指導します。研究者の道に進みたい方には、科研の申請書の書き方や大学での講義方法についても適宜助言します。

国語科内容学研究指導　　谷　口　高　志

中国古典文学（特に唐代文学）の研究、および漢文教材の開発について指導する。作品の精読を基盤に据えつつ、新たな問題意識にもとづく調査報告を繰り返し、論文の完成を目指す。査読論文の投稿や学会発表の準備も支援する。

国語科内容学研究指導　　内　山　精　也

中国における中国古典研究が正常化し、求心力を高めている現状のなかで、日本の関連研究もその存在意義が改めて問われている。日本の伝統的な強みを再認識しつつも、独自性を自覚的に強化する必要に迫られているといってよい。このような観点から、われわれはまず足許を見つめる作業から始めなければならないであろう。すなわち、訓読の意義、そして中国古典の受容と再生産等々から今一度考え直す必要がある。その上で、日本人の作った漢詩文に光を当ててゆきたい。それは、研究の独自性を担保するだけでなく、漢文教育の新教材開発へと直結するプロセスとなるであろう。

国語科内容学研究指導　　五味渕　典嗣

近現代の日本語による文学・文化を対象とする博士論文の作成を念頭に、研究テーマを精緻化し、未公刊資料を含めた幅広い文献資料の探索と調査、研究動向を踏まえたテクスト分析の打ち出し方等にかんする指導と支援を行う。個々の受講者の研究テーマや問題意識を大切にしながら、隣接領域での知見との対話をふくめ、幅広い視野を持った博士論文を完成させることを目標としたい。また、博士論文の執筆に向け、全国規模での学協会・国際ワークショップ等での口頭発表や論文の投稿など、研究成果の公表に向けた支援も行う。

国語科内容学研究指導　　和　田　敦　彦

日本の近、現代文学の表現を中心に、受講者の関心に応じて、雑誌など多様な出版メディアや、読者の享受史を含め、幅広い対象についての研究指導をしています。研究の方法、文献資料の扱い、調査方法を実践的に学び、口頭発表やディスカッションなどを通して、論文の作成や研究発表に結びついていくよう、指導、支援していきます。

国語科内容学研究指導　　光石　亜由美

日本の近現代文学（ジェンダー、セクシュアリティ）を対象とする研究指導を行う。

英語科教育学研究指導　　折井　麻美子

本研究指導は、英語教授法、教材開発、各技能の指導法（特に発音や聴解指導、スピーキング指導)、外国語習得理論などをテーマとした博士論文執筆の助言・支援を行います。

英語科教育学研究指導　　澤　木　泰　代

本研究指導は、応用言語学の中でも特に英語教育における言語テストを中心テーマとする。言語テスト開発・妥当性検証の根幹となるテスト理論や第二言語習得理論、教育測定学など様々な観点から言語テストについて検討することにより、専門的知識・スキルの拡充をはかる。関連の研究分野での最新の動向を見据えながら、博士論文作成を通して教育現場でのテスト実践、また理論的テスト研究の両面において英語教育の場に根差した研究成果を積極的に発信していくことができるよう指導・支援を行う。

英語科教育学研究指導　　オオガ-ボールドウィン　ウィリアム

教育現場の実証的研究を中心に指導する。初等・中等教育の学習環境と学習者の個人差の関係を測定し、理論に基づいた普遍的な問題を研究する。そのため、研究法や統計法をある程度把握している方、または教育・心理学の理論を多く理解している方が望ましい。博士論文の作成を通して、日本国内だけではなく、積極的に国際学術社会に影響を及ぼせる研究ができるよう指導・支援を行う。

英語科教育学研究指導　　マキュワン　麻哉

学習者要因（動機づけ、認知スタイル、不安、性格、バーンアウト、ストレスなど）がどの程度、第二言語や外国語の習得に影響を及ぼすかを研究します。応用言語学や心理学における様々な理論を網羅し、理論に基づく実証研究に取り組みます。またその結果を教育実践のみならず、理論や学問分野の発展に貢献できる形で論文を執筆します。

英語科内容学研究指導　　木　村　大　輔

グルーバル社会における英語と多言語コミュニケーションについて探究する。博士後期課程では、応用言語学・社会言語学についての広い見識と、専門分野の動向や論点についての深い理解を身に着け、専門家の批判に耐えうる研究の計画・実施を目指す。学会発表や論文投稿のサポートも適宜行う。
キーワード： 応用言語学、社会言語学、語用論、世界の英語（World Englishes)、共通語としての英語（English as a lingua franca)、会話・談話分析、言語景観、言語イデオロギー、多言語コミュニケーション、マルチモダリティ、トランスリンガリズム、異文化コミュニケーション

英語科内容学研究指導　　久　野　正　和

私の研究室では、生成文法の統語論を中心とした研究指導をしています。近年では、特に統語論と数学の融合を目指しています。具体的には、極小主義における併合を数学の加法と乗法に対応させることで、移動の根本理由は共通因数の括り出し（因数分解）であるという数学的主張を提案しました。また、移動の局所性条件は数学の式変形と同じ原理によって説明可能であることも示しました。併合と移動以外でも、否定一致表現を虚数単位iとする分析や、多重指定部のabba型構造をハノイの塔の数理に帰着する発想など、統語論と数学の間を自由に行き来しながら、日々研究を続けています。学生指導においては、統語論研究を中心に据えながら、数学、物理学、生物学などのサイエンス全体にも精通した射程の広い研究者に成長してもらえるように、心掛けています。

英語科内容学研究指導　　バックハウス　ペート

社会言語学の研究に興味と経験のある院生を募集する。研究計画から論文執筆までサポートする。研究指導は完全に英語で行われるため、アカデミック英語に不自由がないことが必須である。

英語科内容学研究指導　　新　川　清　治

本研究指導では主に歴史的視点からの言語研究を博士論文にまとめる支援を行う。原則的に修士論文の内容を発展させる形で指導を進める。時期や分野は問わないが、担当教員自身は現在、初期中英語期の形態論、統語論を中心に扱っている。

英語科内容学研究指導　　虹　林　　慶

修士課程で培った力を博士論文の完成へとつなげることができるよう支援します。よって、一定の学術活動ができることが前提条件です。イギリス文学の 19 世紀の詩や散文などが担当教員の専門分野ですが、それ以外の領域についても対応します。

英語科内容学研究指導　　松　永　典　子

近代（モダニズム／モダニティ）はいつから始まり、どのように変容し、どんな条件がそれを可能にしたのか、そこから排除されたものは何か。こうした問いを、イギリス文学・文化を通じて考えている。そのため研究対象はおもに散文（小説・伝記）だが、近代に発展した批評（ジェンダー、ポストコロニアル批評）、メディア（演劇・映画）にも関心を持っている。先行研究の精査・資料収集・論文執筆（日英）等の研究力の形成、博士論文完成のための研究計画の作成、学会誌への投稿、学会発表、留学を支援する。

英語科内容学研究指導　　閑　田　朋　子

修士課程で習得した研究技能を基盤として、それらをさらに発展・深化させ、独創的かつ学術的意義の高い博士論文の完成を目指します。担当教員の専門は、産業革命以後のイギリスにおけるジャーナリズムおよび小説研究ですが、受講者の関心や問題意識を尊重し、十分な意欲がある場合には、関連分野も含めた柔軟な研究指導を行います。

英語科内容学研究指導　　三　好　　力

本研究指導では、イギリス文学・文化研究を中心に探究し、博士論文の完成に向けて、資料収集、論文執筆、学会誌投稿・発表などの研究活動を総合的に支援する。なお、担当教員の専門は王政復古期演劇および 18 世紀イギリス文学・演劇史であるが、研究指導はそれらにとどまらず、関連領域にも及ぶ。

英語科内容学研究指導　　佐久間　由　梨

アメリカ文学・文化研究の応用・実践的技能（資料収集、先行研究の調査、アカデミック・ライティング、日本語・英語によるプレゼンテーション、議論および意見の共有に加え、学会発表の技術）を養成し、質の高い博士論文へと結実させることが目標です。研究職を志す学生には、(1)論文を査読付きの学術誌に投稿すること、(2)学会発表を行うこと、(3)アメリカの大学院（博士課程）へと進学することを目標とした指導も行います。担当教員の専門領域は 19 世紀から現代までのアフリカ系アメリカ人文学・文化・音楽、フェミニズム、ポピュラー音楽研究ですが、研究指導の範囲はそれらに限らず、アメリカに関連する分野全般とします。

英語科内容学研究指導　　田ノ口　正悟

本研究指導では、入植期から 19 世紀中葉のアメリカン・ルネサンスを経由して、20 世紀転換期までを射程としながら、アメリカ文学・文化に関する知識を深め、自身の考えを学術的に表現するための発表法や論文作成術を指導します。担当教員の専門は 19 世紀アメリカ文学・文化ですが、それ以外についても対応します。

社会科教育学研究指導　　池　　俊　介

社会科教育論の研究分野は多岐にわたるが、主として地理教育論に関する研究指導を行う。地理教育史、子どもの地理的認識の発達、地図・フィールドワーク等の地理的スキル、外国の地理教育に関する研究など、可能な限り広い分野を視野に入れ、学生が各自の問題関心に基づいて博士論文を作成できるよう指導する。

社会科教育学研究指導　　近　藤　孝　弘

主として研究者の道を進もうとする学生を対象に、公民教育・歴史教育の研究指導を行う。特に博士論文執筆と学会活動の支援を中心に、研究計画の作成・遂行・成果発表の仕方等に関する指導を通じ、受講生がそれぞれの学問分野において自立した研究者として出発する上で必要な知識と技能の習得を図る。

社会科内容学研究指導　　高　木　徳　郎

日本の平安時代から戦国時代（10～16 世紀）における政治・経済・社会・文化に関する諸問題を歴史学的に考察し、修士論文のテーマをさらに発展させ、研究史に寄与しうる博士論文の作成を目指すよう指導する。但し、博士課程に在籍する学生に対して向けられる社会的な要請をよく自覚し、積極的に学会活動をはじめとした学外での活動に参加することもきわめて重要である。そうした活動を通じて初めて、自分の研究が学界や社会の中でどのような意義をもち、何が自分に期待されているのかをよく把握・理解でき、研究者としての自立が可能になるのである。現地調査・史料調査もそうした観点から必須であるし、在学中に必ず、研究論文の投稿や学会報告などの経験を積むことが求められる。

社会科内容学研究指導　　大　橋　幸　泰

日本近世史（16C 末-19C 中）の諸問題を材料に、歴史学を専攻するうえで必要な、研究史の把握力と史料の読解力を鍛える。その際、前近代的要素と近代的要素の両方の側面を総合的に捉えることにより、近世の固有性を追究することに力点を置く。とりわけ歴史に向き合う姿勢として、生活者の視点を大事にし、政治・経済・文化の諸相を複眼的に捉える訓練を行う。また、日本近世史を専門としつつも、その前後の時代および同時代の日本列島の外の世界との関係を意識しながら、過去の人びとの営為を跡づけるとともに、歴史学の社会的責務についても考えていく。

社会科内容学研究指導　　三　村　昌　司

担当者の専門は 19 世紀後半の日本近代史及びアーカイブズ学（特に民間所在資料に関する研究）である。ただし研究指導においては、受講生の関心に沿いながら日本近現代史（幕末維新期から戦後）に関する近年の優れた文献及び重要な史料を検討し、博士論文の執筆に向けて史料や文献の読解力、論文執筆力を高め、博士論文を作成できるようにする。また、歴史教育、博物館・文書館などの活動、大規模災害時における歴史資料保全活動などの実践的活動についても知り、歴史学と社会とのつながりについても考えていくことにしたい。

社会科内容学研究指導　　岡　本　隆　司

主に東アジアの近世・近代史を研究対象として、受講者の問題関心や研究テーマを考慮しつつ、漢語はじめ多言語の史料分析能力を養成しつつ、博士論文作成に向けて指導を行う。

担当者の専門分野は中国近世・近代の対外関係史であることから、研究指導においては、関係する複数言語の史料を多角的に読解批判できる技量を習得し、歴史学そのものを問いなおすことのできる識見の獲得をめざす。

社会科内容学研究指導　　石　濱　裕美子

チベット仏教は 13 世紀にはモンゴル帝国(元朝)、17 世紀には大清帝国(清朝)の皇帝の帰依をうけ、現在ダライ・ラマ 14 世は欧米における仏教ブームの「顔」となっている。このように長期にわたりチベット仏教が多様な民族、地域に影響を与えてきたことは、チベット仏教思想が極めて普遍性が高いことを示している。チベット仏教の影響下に成立した資料のいずれかを学生の希望に応じて題材にして、原資料の読解スキルを向上させ、かつ、一国史に縛られない俯瞰的な歴史観の構築を行う。

社会科内容学研究指導　　箸　本　健　二

担当教員の専門分野は経済地理学および都市地理学であり、特に大都市圏における商業立地や、地方都市における中心市街地問題とその活性化を主な研究対象としている。研究指導では、学生個々の目的意識と研究テーマを尊重しつつ、その内容が人文地理学という学問体系の中でどう位置づけられるか、具体的な対象設定と実査をどのように行うか、そして蓄積された個別の研究をいかに博士論文に収斂するかについて、ゼミだけではなく、現地調査ならびに他大学院との合同勉強会（インターゼミ）など様々な機会を通じて指導する。

社会科内容学研究指導　　山　内　昌　和

担当者の専門分野は人口地理学および農山漁村地理学である。研究上の関心は持続的な地域社会の仕組みを探ることにあり、最近では地域における人口・家族・世帯の変化と就業・産業構造の変容との関連の解明が研究課題である。研究指導では、学生の関心を尊重しつつ、隣接領域の成果も踏まえながら各自の研究上の位置づけを明確にし、最終的に博士論文にまとめることを目指して学会での報告や投稿論文の執筆を進めることをサポートする。

社会科内容学研究指導　　遠　藤　美　奈

担当者の問題関心は、人間生活に必要なニーズの充足について公権力は憲法上どのような義務を負うかに存する。研究指導では、憲法に関わる博士論文の完成に向けて、憲法の解釈論及び憲法理論に関する内外の先行研究について検討し、各人の研究報告とそれに対する討論を通じて、論文の完成に向けた指導を行う。

社会科内容学研究指導　　熊　谷　善　彰

株式・債券・為替・商品などの市場の価格変動メカニズムの分析、企業・家計などの経済主体がリスクのある状況で行う意思決定についてリアル・オプションなどのファイナンス理論を応用した分析を主な対象とする。学生の研究テーマに関連した先行研究を精査しつつ、学会報告、論文投稿、そして博士論文の作成を支援する。

社会科内容学研究指導　　若　林　幹　夫

都市、メディア、空間、時間、身体等を対象とする社会学理論、比較社会学、現代社会論を専門とする。社会学のみならず隣接する社会諸科学や人文諸科学等も視野に入れた文脈の中に各自の問題意識を位置づけ、学会報告、専門誌への論文投稿から博士論文の提出にいたるまでの指導をおこなう。

社会科内容学研究指導　　野　上　　元

担当教員の専門は、歴史社会学と戦争社会学である。前者は、歴史研究一般に近い歴史社会学と、歴史認識や記憶、メディア・表象分析に焦点を当てる「歴史の社会学」の両方を含む。また後者は、「戦争・軍隊と社会」に関わる歴史的・現代的なテーマを広く扱う。学生の興味関心を最大限尊重するが、どのようなテーマであれ、様々な対象・資料にアプローチする調査・データ分析に関わる実証的な社会学的想像力を持ってもらうよう指導する。

社会科内容学研究指導　　新　藤　雄　介

メディア研究の中でも、特に歴史的な研究を専門とする。研究において大切なのは、これまでの研究では明らかにされてこなかった重要な点を明らかにする、ということである。そのために、対象の選択、方法論や分析の着眼点の設定、資料やデータの収集、具体的な分析といった点で、自分の研究がどのような独自性と重要性を持つのかを説明できるように指導し、研究報告や博士論文執筆を行えるようにする。

数学科教育学研究指導　　宮　川　　健

数学教育学、とりわけ数学の指導や学習の営みを理解するといった基礎的な研究に関する指導を行う。学術雑誌への論文投稿や学会発表、国内外の研究者との交流などを通して、数学教育学の研究者として自立する上で必要となる基礎的な知識・技能の習得を支援する。

数学科教育学研究指導　　高　木　　悟

テスト理論、ファジィ理論、ラフ集合理論などに基づく教育情報の分析法、評価法に関する研究指導を行う。また、受講者の論文作成や学会発表による研究者としての能力を育成する。

数学科内容学研究指導　　新　井　仁　之

解析学・応用解析学，特にウェーブレット・フレーム，フレームレットをはじめとする応用調和解析の発展的なテーマ、あるいは関連する応用に関する指導を行い、博士論文の作成を目指す。

数学科内容学研究指導　　梁　　松

解析学の一分野として、確率論・確率解析及びその応用に関する研究指導を行う。学生が興味を持つ関連分野に関して、自ら先行研究の文献を調べ、テーマを選定する。また研究討論を通じて、必要となる基礎的知識を習得するとともに、研究分野において発展的議論ができるように支援を行う。

数学科内容学研究指導　　戸　松　玲　治

解析学研究指導（博士前期課程）に引き続き作用素環論に関する、博士論文作成を目的とした研究指導を行う。

数学科内容学研究指導　　村　井　　聡

代数的組合せ論に関する研究指導を行う。可換環論、ホモロジー代数、表現論、組合せトポロジー、凸多面体の幾何学などの代数学や組合せ論の分野に関する基礎的な知識を習得するとともに、スタンレー・ライスナー環、エルハート環、単項式イデアル、二項式イデアルなどの理論について学び、それらを用いて可換環論や組合せ論の問題を研究する。

数学科内容学研究指導　　安　福　　悠

代数的整数論に関する研究指導を行う。担当教員の専門である Vojta 予想に限らず、ディオファントス幾何や数論的力学系などから学生が主体的に研究テーマを選ぶことで、独自の専門性を持てるようにする。国内外の研究者との議論を促し、幅広い視野に基づいた研究及び博士論文となるよう助言する。

数学科内容学研究指導　　高　島　克　幸

暗号理論、暗号数理、計算数論に関する研究指導を行う。課題設定から論文作成まで、学生の自主性を尊重した指導と助言を行っていく。また、国内外の研究者とも活発に議論して、できるだけ独自な視点に基づいた研究・博士論文作成ができるように指導する。

数学科内容学研究指導　　小　森　洋　平

「幾何学研究指導」（博士前期課程）に引き続くものである。幾何学、特に双曲鏡映変換群の幾何、及び複素解析幾何に関する博士論文を書くための研究指導及び助言を行う。

数学科内容学研究指導　　谷　　誠一郎

理論計算機科学を背景として，量子計算量や量子アルゴリズムに関する研究指導を行う。学生が自主的にテーマ設定・研究推進を行なっていけるよう，必要な研究指導と助言を行い，博士論文の作成を目指す。その過程において，国内外の研究者との議論も強く推奨する。

数学科内容学研究指導　　谷　山　公　規

位相幾何学（トポロジー）、その中でも特に結び目理論とその関連分野の研究指導を行なう。学生の長所を伸ばして、オリジナリティーの高い研究が出来るようにサポートする。

数学科内容学研究指導　　安　原　　晃

結び目理論の中でも、絡み目の代数的・組み合わせ的不変量に関する研究指導を行う。古典的絡み目に限らず、その拡張である、ウェルデッド絡み目や曲面絡み目も研究対象とする。

数学科内容学研究指導　　山　口　祥　司

博士論文作成を目的とし、低次元位相幾何学や結び目理論における多様体または結び目の不変量に関する研究指導を行う。

博士学位論文の申請について

教育学研究科 Web ページでは、博士学位論文の申請に関する情報を公開しています。
博士論文審査の基準や流れについても掲載していますので、詳細を必ずご確認ください。
教育学研究科 Web ページ：https://www.waseda.jp/fedu/gedu/students/report/

「大学院博士後期課程研究者養成奨学金制度」

早稲田大学は、2009 年度入学者より大学院博士後期課程において優秀な研究者を養成することを目的として、「大学院博士後期課程研究者養成奨学金制度」を設立しました。

奨学金に関する詳細情報は以下、早稲田大学奨学課ホームページをご覧ください。
https://www.waseda.jp/inst/scholarship/

給付対象：次のいずれにも該当する方

1．大学院博士後期課程の正規課程に在籍し、標準修業年限内の者で当奨学金に出願する者（休学者を除く）
2．奨学金を受ける年度の 4 月 1 日現在で修士学位もしくは専門職学位取得後 8 年以内、あるいは学部卒業後１０年以内の者
3．学生本人の前年収入が 442 万円以下の者
4．国費留学生・早稲田大学助手等、授業料の全額免除またはそれに準ずる制度の適用を受ける者を除く

2026 年度奨学金額（ご参考）：年額（単年度給付）

・教育基礎学専攻	250,000～400,000 円程度
・教科教育学専攻（数学科内容学を除く）	250,000～400,000 円程度
・教科教育学専攻（数学科内容学）	400,000～600,000 円程度